

## 資料編

- 1 津島市環境基本計画策定委員会
- 2 津島市環境基本計画の策定経緯
- 3 津島市の環境の現状
- 4 環境に関する市民意識

# 1 津島市環境基本計画策定委員会

## (1) 津島市環境基本計画策定委員会要綱

### 津島市環境基本計画策定委員会要綱

#### (設置)

第1条 津島市環境基本計画（以下「計画」という。）を策定するため、津島市環境基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

#### (所掌事務)

第2条 委員会は、計画の策定に関し、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 環境の現況及び課題並びに環境に関する意識調査に関すること。
- (2) 環境目標、環境施策及び計画の推進に関すること。
- (3) 計画書に関すること。
- (4) その他環境保全の施策に関すること。

#### (委員)

第3条 委員会は、委員15人以内で組織する。

- 2 委員は、学識を有する者、市民並びに事業所、各種団体及び関係機関の代表者のうちから市長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、平成28年3月31日までとする。

#### (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。

#### (会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員会においては、委員長が議長となる。
- 3 委員長（委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する者）及び半数以上の委員が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。
- 4 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

#### (資料提出の要求等)

第6条 委員会は、その所掌事務を遂行するため必要と認めるときは、関係部局に対し、資料の提出、説明その他必要な協力を求めることができる。

#### (庶務)

第7条 委員会の庶務は、生活産業部生活環境課において処理する。

#### (委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

#### 附 則

- 1 この要綱は、平成26年9月18日から施行する。
- 2 この要綱の施行後最初に開く会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

## (2) 委員名簿

選任区分	氏名	所属
学識者	千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部
関係機関	近藤 了	愛知県尾張県民事務所海部県民センター（平成 27 年度）
	柘植 孝之	愛知県尾張県民事務所海部県民センター（平成 26 年度）
市民	飯田 政敏	西小学校区コミュニティ推進協議会
	三輪田邦子	神守小学校区コミュニティ推進協議会
	長尾 一男	神島田小学校区コミュニティ推進協議会
事業者	香川 二郎	昭和機械株式会社
	小林 正治	あいち海部農業協同組合
各種団体	佐々木和治	愛知県地域環境保全委員
	橋本 貴代	愛知県地域環境保全委員
	大石美智子	津島市環境市民委員会
	松永真希子	社会福祉法人永美福祉会唐臼保育園
	山内 則子	津島市女性の会
関係機関	石村眞一郎	津島市教育委員会学校教育課（平成 27 年度）
	木全 孝	津島市教育委員会学校教育課（平成 26 年度）

## 2 津島市環境基本計画の策定経緯

日にち	内容
平成26年 11月18日（火）	津島市環境基本計画策定委員会（第1回） ・津島市環境基本計画及び津島市環境基本計画策定委員会の説明 ・津島市の環境に関する市民意識調査の実施に関する協議
12月5日（金） ～12月26日（金）	津島市の環境に関する市民意識調査 ・市民（18歳以上）2,000人・小中学生536人・事業者300社 ・調査票回収：2,836件（回収率60.8%）
平成27年 3月6日（金）	津島市環境基本計画策定委員会（第2回） ・津島市の環境に関する市民意識調査及び基礎調査の結果報告 ・津島市の環境に関する取組みの整理と現行計画の検証 ・津島の環境に関するワークショップ ・基本理念・基本目標に関する協議
5月18日（月）	津島市環境基本計画策定委員会（第3回） ・計画策定スケジュールの了承 ・策定委員会（第2回）の振り返り ・施策体系及び目次構成に関する協議
8月6日（木）	津島市環境基本計画策定委員会（第4回） ・策定委員会（第3回）の振り返り ・計画の骨子原案の確認 ・議論の論点整理及び協議 論点1：基本理念・基本目標 論点2：リーディングプロジェクト
10月23日（金）	津島市環境基本計画策定委員会（第5回） ・策定委員会（第4回）の振り返り ・計画（素案）に関する協議 ・リーディングプロジェクト、計画の推進体制の修正報告・協議 ・市民説明会の概要説明及び意見聴取 ・パブリックコメントの概要説明
12月6日（日）	津島市環境基本計画説明会（津島市消費者生活展） ・津島市環境クイズ 参加者：159人 ・燃料電池自動車（FCV）「MIRAI」展示 ・津島市環境市民委員会との協働事業（自転車発電機体験コーナー、津島の環境の将来像の意見聴取、津島市環境市民委員会10年のあゆみ展示等）
12月14日（月） ～平成28年1月 13日（水）	パブリックコメント
平成28年 2月23日（火） 予定	津島市環境基本計画策定委員会（第6回）

### 3 津島市の環境の現状

#### (1) 基礎的条件

##### ① 位置・地勢

- 津島市は、濃尾平野の西部、名古屋市の西方約16kmに位置し、市域は南北7.25km、東西7.30km、面積は25.09km<sup>2</sup>を有しています。
- 地質は木曾川、長良川、揖斐川等の河川によって堆積した沖積層からなる三角州平野で、地形的には市域のほとんどが起伏の少ない海拔ゼロメートル以下の低地です。また、中央部を南北に縦断する天井川である日光川をはじめ、日光川水系の河川が流れています。
- 気候は春・秋は過ごしやすく、夏は高温多湿で蒸し暑く、冬は北西の風が強く吹きます。市域には田畑が多く、様々な野鳥や植物を見ることができます。また、天王川公園周辺では、春の桜、初夏の藤、秋の紅葉、冬の雪景色といった四季折々の自然の情緒を味わうことができます。

##### ② 人口・世帯数

- 津島市は、平成27年1月1日時点において、人口64,450人、総世帯数25,579世帯です。
- 世帯数は増加傾向にある一方で、人口はわずかに減少傾向にあります。世帯人員は、核家族化の進行や単身世帯の増加等により、減少傾向にあります。
- 今後は出生数の減少や団塊の世代の加齢等により、少子高齢化が一層進むと見込まれ、将来人口の推計値は平成32年で61,200人となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所による平成52年(2040年)の将来人口の推計値は、約53,000人とされています(平成25年3月推計)。

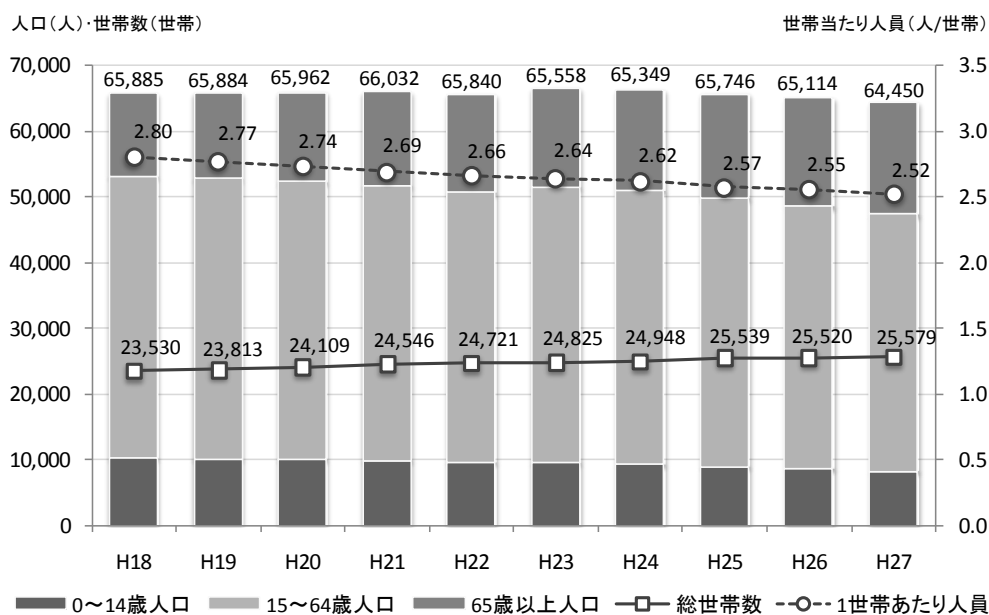


図 年齢別人口・世帯数・世帯人員の推移

出典：津島市「津島の統計（住民基本台帳登録人口）」

### ③ 産業構造

- 15歳以上の就業人口は、過去20年間ほぼ横ばいで推移しています。平成22年の産業分類別就業人口では、第三次産業が19,962人と約64%を占めています。
- 平成22年時点の農家数は、専業農家が114戸、兼業農家が486戸となっていますが、特に兼業農家は平成2年の約1/3に減少しており、経営耕地面積も減少が進んでいます。
- 製造業の製造品出荷額は、平成20年までは増加傾向でしたが、平成21年はリーマンショック、平成23年は東日本大震災によると考えられる減少がみられます。

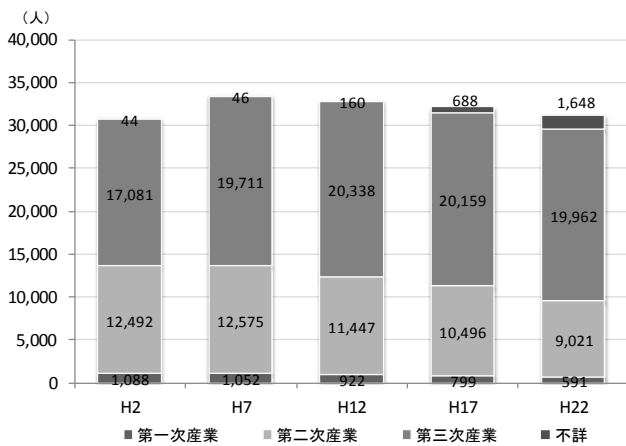


図 産業別就業人口

出典：総務省統計局「国勢調査」

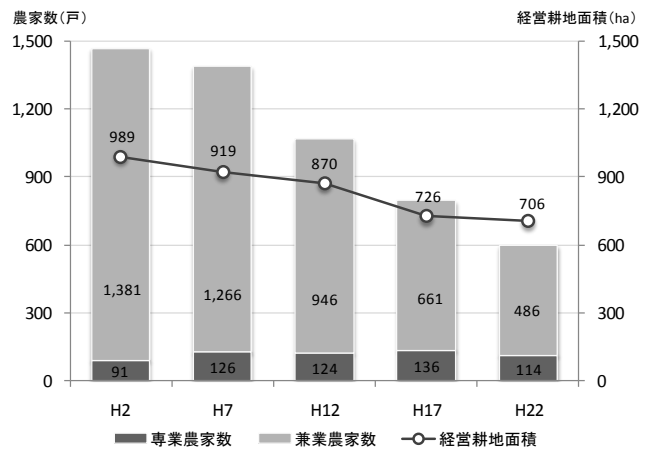


図 専業・兼業農家数と経営耕地面積

出典：農林水産省「農林業センサス」

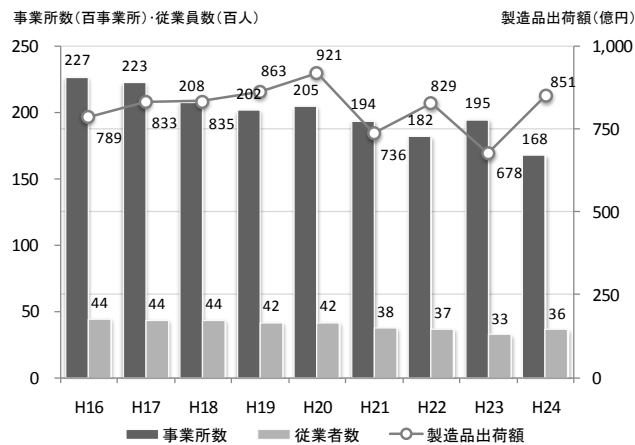


図 製造業の事業所数、従業員数及び製造品出荷額等の推移

出典：経済産業省「工業統計調査」、総務省統計局「経済センサス活動調査」

#### ④ コミュニティ推進協議会

○津島市では、地域の人たちや様々な団体の英知とエネルギーを一つにし、連携し、一体となって活動を進めていくために、市内の小学校区毎に「コミュニティ推進協議会」を組織しています。

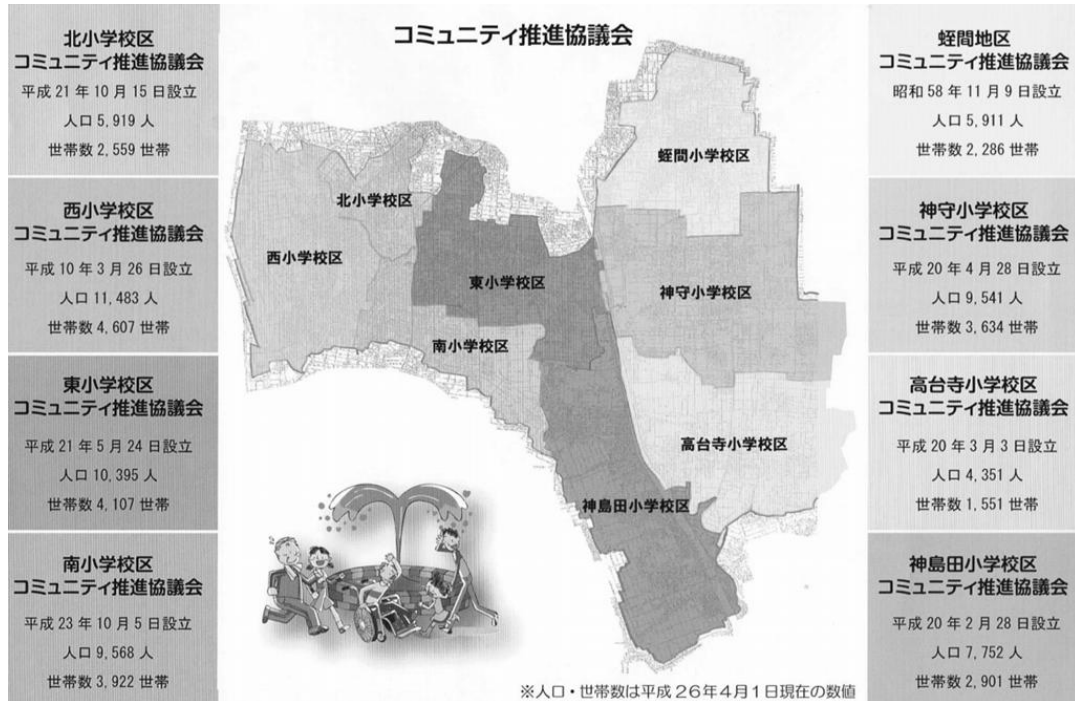


図 コミュニティ推進協議会

出典：津島市「地域コミュニティの“わ”を広めませんか？」

## (2) 自然環境

### ① 自然環境全般

- この地域は、木曾川、長良川、揖斐川等の河川によって堆積した沖積層からなる三角州平野で起伏が少なく、高度成長期の地下水利用の急増により、市域の大部分は海拔ゼロメートル以下となっています。
- 市西部の旧木曾川（佐屋川）河道付近には、市内で最も大きな自然堤防があり、この地形に沿って形成された緑濃い集落地や堤防上の松並木は、治水の歴史を今に伝える緑です。これらの緑が一部途切れつつも、天王川公園及びその周辺や津島神社等に見られるまとまった緑と一体となり、緑のつながり（軸）を形成しています。大川に比較的近く、自然堤防の樹林等を含むことから、生物の多様性に富んだエリアとなっています。
- 市東部では、まとまった農地の緑や点在する集落地内に見られる社寺林、大小の河川や水路が緑の要素となっています。神守地区は農村地帯に住宅地が広がり、徐々に市街地へと変貌しているため、生物の多様性はやや低く、神島田地区は農地の割合が高いことから、低湿地や農地周辺の生物が比較的多く生息しています。

### ② 気象

- この地域の気候は、高温多雨の時期と寒冷少雨の時期があり、冬季には、北西の季節風が強く吹き、乾燥する特徴があります。
- 年平均気温（平成 21 年～平成 25 年）は 15.6℃で、月別気温の最低は 3.6℃（1 月）、最高は 28.6℃（8 月）です。年平均降水量（平成 21 年～平成 25 年）は 1,776.6mm で、月別降水量の最多は 255.3mm（9 月）、最少は 43.0mm（1 月）です。
- 年平均気温は、100 年間で約 1.7℃の上昇が観測されています（名古屋地方気象台）。このような気温上昇は、近年のゲリラ豪雨の増加等に影響を与えていると考えられています。また、世界全体では約 0.8℃、日本全体では約 1.1℃の上昇となっており、津島市の周辺ではこれらを上回る気温の上昇が起きていることが分かります。

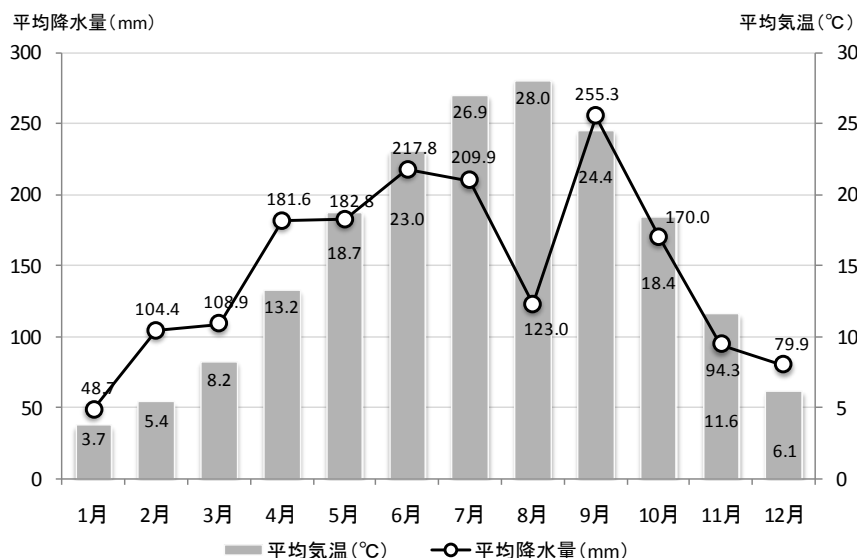


図 月別降水量と平均気温（平成 21～25 年の 5 年間の平均値）

出典：気象庁「愛西地域気象観測所気象データ」



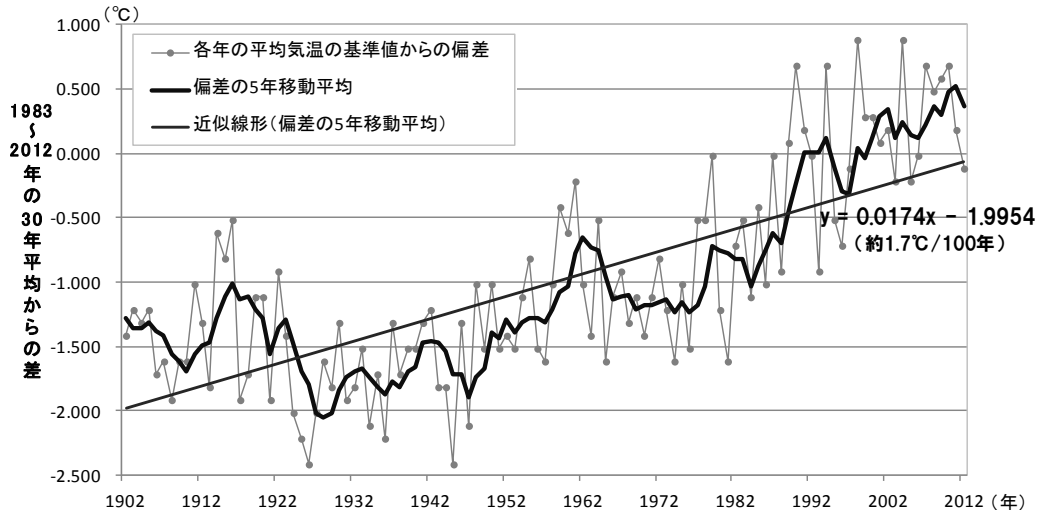


図 年平均気温偏差の推移（名古屋地方気象台）

出典：気象庁「名古屋気象台観測データ」

### ③ 土地利用

- 平成 24 年の農地（田・畑）の面積は 890ha で、市全体の 35.4%を占めており、海部地区 7 市町村（津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村）の平均（37.1%）とほぼ同程度です。
- 日光川以西については、西部で花きやいちごなどの園芸作物と水稻が、南部の神島田地区では水稻が多く栽培されています。日光川以東の神守地区では、北部で野菜が、中南部で水稻が多く栽培されています。
- 平成 17 年以降の土地利用の面積増減をみると、宅地は 1.1%増加、田は 1.7%減少しており、県平均（宅地 0.8%増、田 0.6%減）の値よりもその傾向は強くなっています。

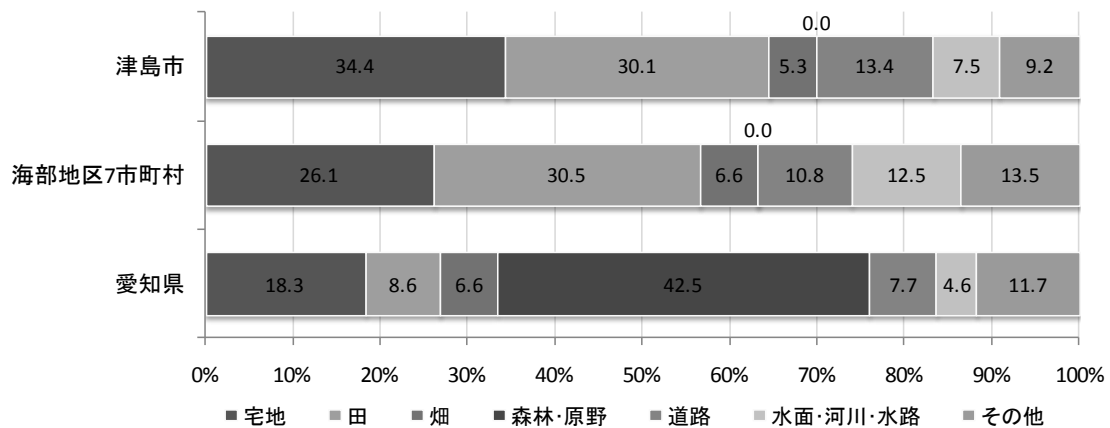


図 地目別土地利用面積（平成 24 年）

出典：愛知県統計課「平成 19 年度～平成 26 年度愛知県統計年鑑」

#### ④ 水辺地

- 水辺地や農地等はサギ類やカモ類の採食適地となっており、このような場所はカエル類やトンボ類を含む多様な生物が生息できる条件にあります。
- 市内を流れる河川は治水・防災機能を重視して整備されているものの、日光川や水路及び水辺の緑地、農地等は、野生生物の生息に適した空間となっています。

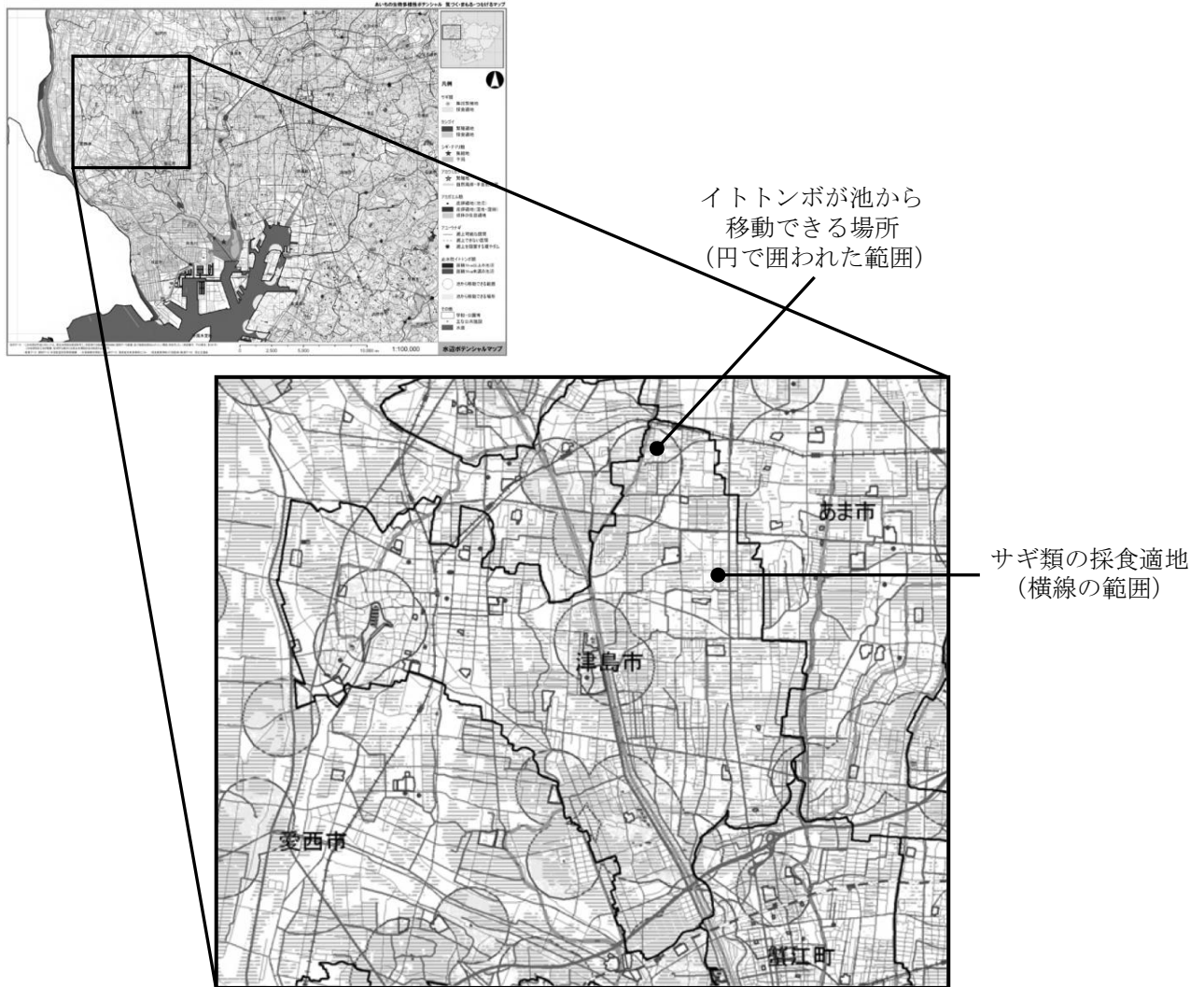


図 水辺ポテンシャルマップ

出典：愛知県自然環境課「あいちの生物多様性ポテンシャルマップ」

## ⑤ 動植物・生態系

- 天然記念物は、下新田のフジや津島神社のイチヨウをはじめとして、ホルトノキ、カジノキ、エノキといった樹木が多く指定されています。
- ナゴヤダルマガエルやメダカ、コウホネ、アサザなどの希少種が市内で確認されており、また、市周辺でも絶滅のおそれのある動植物が確認されています（下表）。
- 生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすおそれのある特定外来生物は、以前から確認されていますが、アライグマの目撃情報が増加したり、近隣地域でセアカゴケグモの移入が確認するなど目に見える変化が生じてきています。

表 津島市周辺における絶滅のおそれのある主な動植物

分類	種名	目名	科名	県ランク	国ランク
哺乳類	ハタネズミ	齧歯（ネズミ）	キヌゲネズミ	準	-
	両生類	ナゴヤダルマガエル	無尾（カエル）	II	I B
昆虫類	ヤマトモンシデムシ	コウチュウ	シデムシ	II	準
	タガメ	カメムシ	コオイムシ	I B	II
	カワラハンミョウ	コウチュウ	ハンミョウ	I A	II
	オオヒョウタンゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	II	準
	オオクワガタ	コウチュウ	クワガタムシ	I A	II
	キバネキバナガミズギワゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	準	準
	クモ類	コガネグモ	クモ	コガネグモ	準
維管束植物	キノガワシウド	セリ	セリ	I A	-
	エキサイゼリ	セリ	セリ	I A	準
	ミズアオイ	ユリ	ミズアオイ	I A	準
	ホザキマスカサ	カヤツリグサ	カヤツリグサ	I A	II
	サンショウモ	シダ	サンショウモ	I B	準
	オオアカウキクサ	シダ	アカウキクサ	I B	II
	ノダイオウ	タデ	タデ	I B	準
	フジバカマ	キク	キク	I B	準
	トチカガミ	イバラモ	トチカガミ	I B	準
	ミズタカモジ	イネ	イネ	I B	II
	ホソバイヌタデ	タデ	タデ	II	準
	マルバタネツケバナ	フウチョウソウ	アブラナ	II	-
	オグラノフサモ	フトモモ	アリノトウグサ	II	II
	コウガイモ	イバラモ	トチカガミ	II	-
	ササバモ	イバラモ	ヒルムシロ	II	-
	カモノハシ	イネ	イネ	II	-
	セイタカハリイ	カヤツリグサ	カヤツリグサ	II	-
	ピロードテンツキ	カヤツリグサ	カヤツリグサ	II	-
	キヌヤナギ	ヒノキ	ヤナギ	準	-
	ナガバノウナギツカミ	タデ	タデ	準	準
	カワラアカザ	ナデシコ	アカザ	準	-
	ミズタガラシ	フウチョウソウ	アブラナ	準	-
	タコノアシ	ユキノシタ	ユキノシタ	準	準
	カワラサイコ	バラ	バラ	準	-
	オオアブノメ	ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	準	II
	チャシバズゲ	カヤツリグサ	カヤツリグサ	準	-
	コギシギシ	タデ	タデ	II	II
	ニッケイ	クスノキ	クスノキ	準	準
	コイヌガラシ	フウチョウソウ	アブラナ	準	準
	ウスゲチョウジタデ	フトモモ	アカバナ	準	準
	ミゾコウジュ	シソ	シソ	準	準
	カワヂシャ	ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	準	準
	ミズオオバコ	イバラモ	トチカガミ	II	II
	ナガボテンツキ	カヤツリグサ	カヤツリグサ	I A	-
	コウホネ	スイレン	スイレン	I B	-
	アサザ	ナス	ミツガシロ	I B	準
	シバナ	イバラモ	シバナ	準	準
	ミズマツバ	フトモモ	ミソハギ	II	II
	イヌノフグリ	ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	II	II
	ウラギク	キク	キク	II	II
	リュウノヒゲモ	イバラモ	ヒルムシロ	準	準
	コケ類	ウキゴケ	ウキゴケ	II	準

表 海部地域で確認されている主な特定外来生物

動物	ほ乳類	鳥類	両生類	魚類	植物
	ヌートリア、アライグマ	ソウシチョウ	ウシガエル	カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス	アレチウリ、オオフサモ、オオキンケイギク、ミズヒマワリ

出典：  
愛知県「STOP! あいちの外来種  
移入種対策ハンドブック」

参考：  
「レッドデータブックあいち 2009」の  
津島市域を含む地図メッシュデータに  
おいて、主に県ランクが「準絶滅危惧」  
以上のものを掲載

- 【ランクの凡例】
- ・絶滅危惧 I A 類：「I A」
  - ・絶滅危惧 I B 類：「I B」
  - ・絶滅危惧 II 類：「II」
  - ・準絶滅危惧：「準」

出典：愛知県「レッドデータブックあいち 2009」

### (3) 生活環境

#### ① 公害苦情

- 苦情件数は、平成 25 年度の公害苦情件数は 136 件で、前年度に比べ 7 件増加しています。
- 典型 7 公害（大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音・振動・地盤沈下・悪臭）の種類別では、大気汚染の苦情が最も多く、平成 24 年度では、公害苦情全体に対する大気汚染の苦情の割合は、愛知県全体と比べ約 1.5 倍の割合となっています。これらは主に野焼きに対する苦情であり、排出ガス・排煙や粉塵によるものは多くありません。

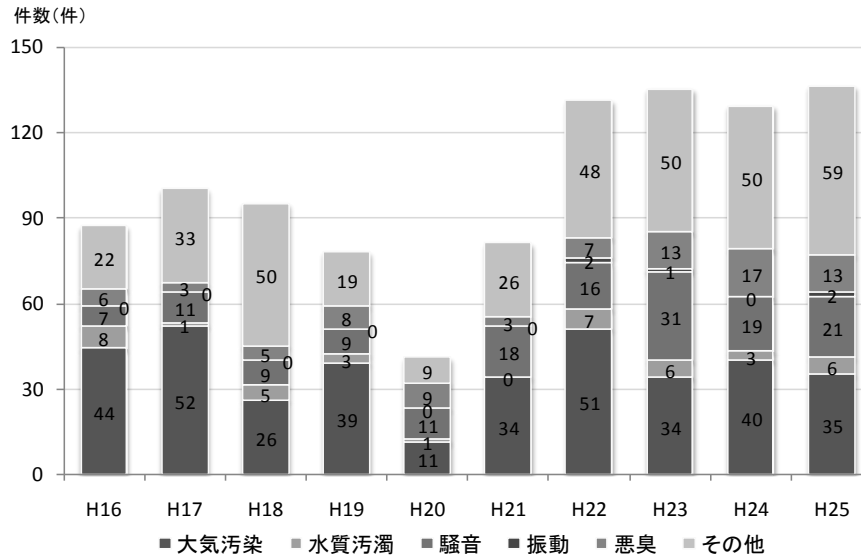


図 公害苦情件数

出典：津島市「津島の統計」

#### ② 大気環境

- 主に工場等の稼働により発生する二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>) と二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) は、環境基準を達成していますが、浮遊粒子状物質 (SPM) は、黄砂の飛散の影響があり、平成 23 年度に基準を達成できませんでした。
- 光化学オキシダントは、いずれの年も環境基準を達成していません。なお、全国的にも環境基準を達成している測定局は 1%未満であり、対策が困難な大気汚染の一つです。
- 微小粒子状物質 (PM<sub>2.5</sub>) は、平成 25 年 12 月から愛知県においても常時監視が行われるようになりました。

表 大気汚染物質の環境基準達成状況 (津島市埋田町)

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	○	○	○	○	○	○	○	○	○
浮遊粒子状物質 (SPM)	○	○	○	○	○	○	×	○	○
光化学オキシダント	×	×	×	×	×	×	×	×	×

出典：愛知県「あいちの環境」(愛知県津島市埋田町観測所)

### ③ 水環境

- 水質の有機汚濁の代表的な指標である生物化学的酸素要求量（BOD）は、改善傾向にあります。
- 環境基準 E 類型が適用される日光川（日光橋）では、10mg/L 以下の環境基準を満たしています。
- 日光川以西の河川では、この数年間は 10mg/L 以下となっており、日光川以東の河川では、10mg/L を超える地点はありますが、全般に改善の傾向がみられます。

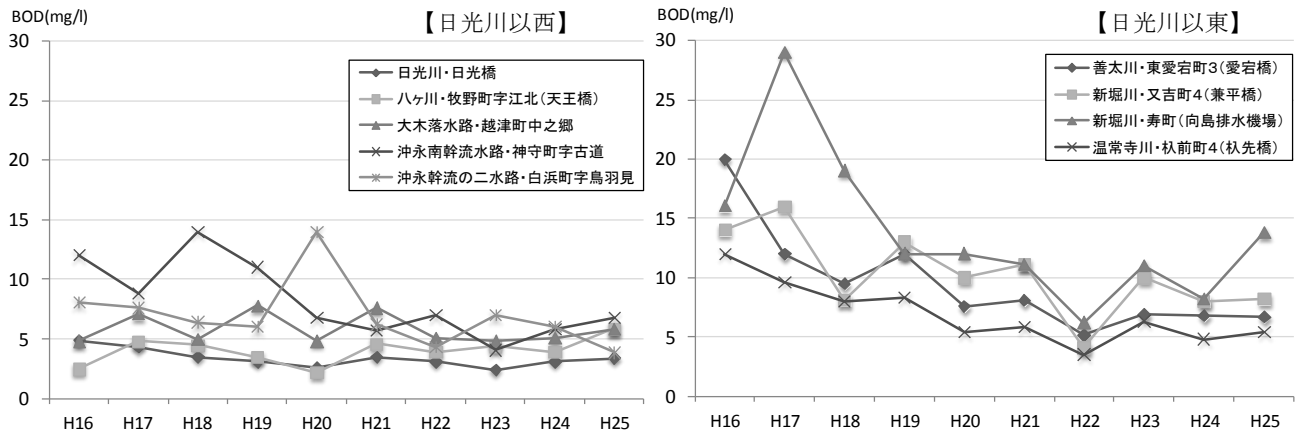


図 市内の水質調査地点における BOD 値（年平均値）

出典：津島市「津島の統計」

### ④ 騒音・振動・悪臭

- 感覚公害である騒音・振動・悪臭は、生活様式や社会環境の変化とともに問題となることが増えていっています。これらは公害苦情件数の多くを占め（平成 25 年度 26.5%）、近年は若干増加傾向にあります。なお、津島市では、国や県全体と比較すると、公害苦情に占める割合が低い傾向があります（平成 24 年度）。

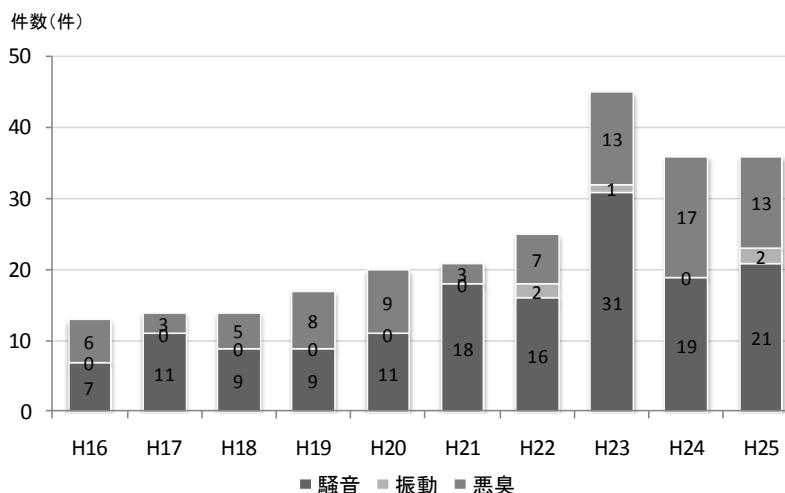


図 騒音・振動・悪臭の苦情件数の推移

出典：津島市「津島の統計」

## ⑤ 地盤沈下

- 地下水の過剰な汲み上げなどによって起こる地盤沈下は、昭和40年代に顕著であったものの、昭和50年代以降、沈下の速度が鈍化し、昭和60年代以降は沈静化してきています。
- 平成15年度から10年間の市内9地点での標高の推移をみると、沈下の傾向がごくわずかにみられます。
- 地盤沈下の観測のため、市内3箇所（埋田町・城山町・神守町）の観測所で地盤沈下量と地下水位を継続的に測定しています。

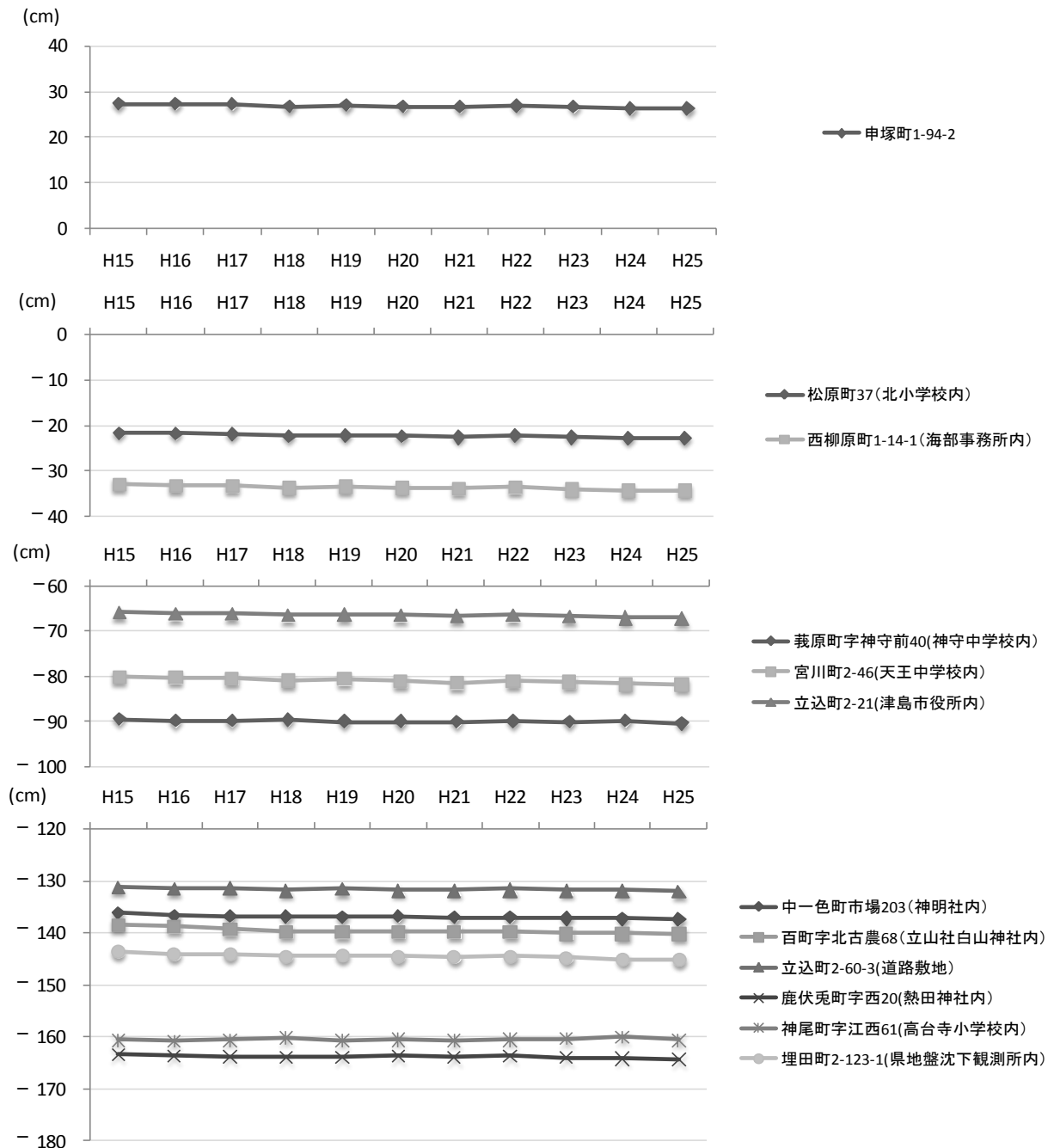


図 市内の地盤沈下の状況（標高の推移）

出典：津島市「津島の統計」

## ⑥ ごみ処理

○ごみの総排出量は、近年、減少傾向にあります。これは、愛知県や全国平均と同様の傾向を示しています。

○1人1日当たりのごみの排出量は減少傾向であり、最近9年間は県平均を若干下回っています。

○リサイクル率は減少傾向にあり、近年では県平均を大きく下回っています。

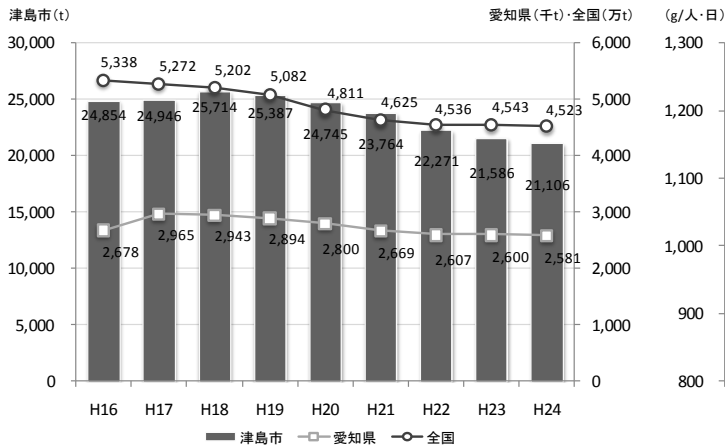


図 ごみ総排出量の推移

出典：津島市「津島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」  
愛知県・環境省「一般廃棄物処理実態調査 調査結果」

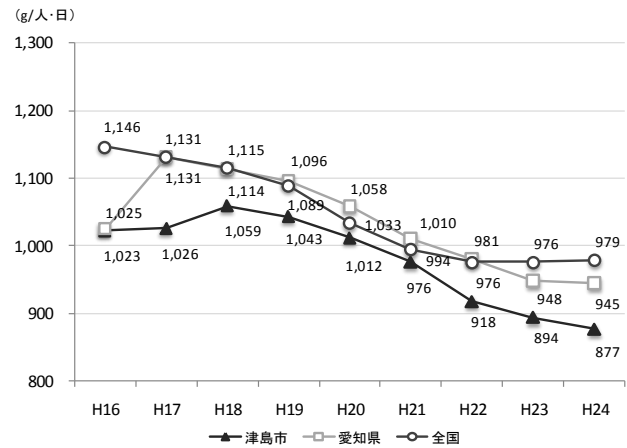


図 1人1日当たりごみ排出量の推移

出典：津島市「津島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」  
愛知県・環境省「一般廃棄物処理実態調査 調査結果」

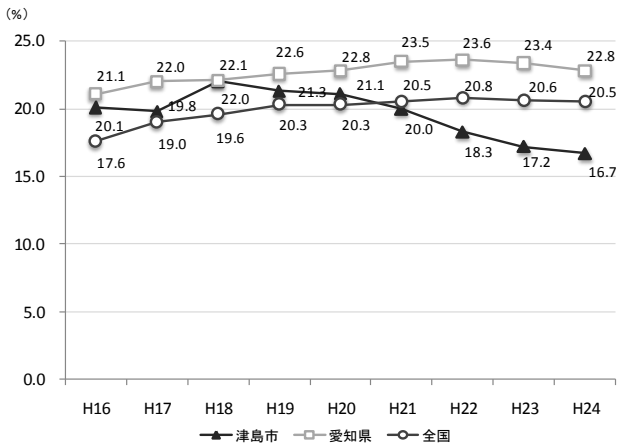


図 リサイクル率の推移

出典：津島市「津島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」  
愛知県・環境省「一般廃棄物処理実態調査 調査結果」

## ⑦ 生活排水処理

- 家庭から出る生活排水を下水道、合併処理浄化槽又はコミュニティ・プラントによって汚水処理を行い、公共用水域に排出すれば、水環境の向上につながります。一方、し尿のみを処理する単独処理浄化槽やくみ取り便所である場合は、生活雑排水が未処理のまま水路や河川に流入することとなります。
- これらの処理の指標となる汚水処理人口普及率は、68.3%（平成 25 年度）で、全国平均（88.9%）、愛知県平均（87.6%）と比較しても低い割合となっています。
- 下水道は、昭和 39 年に中心市街地で供用開始され、平成 21 年からは流域関連公共下水道の供用が開始されました。下水道普及率は、平成 25 年度末において 30.7%であり、全国平均（76.3%）、県平均（74.7%）を大きく下回っているものの、流域関連公共下水道の整備に伴い、向上しています。

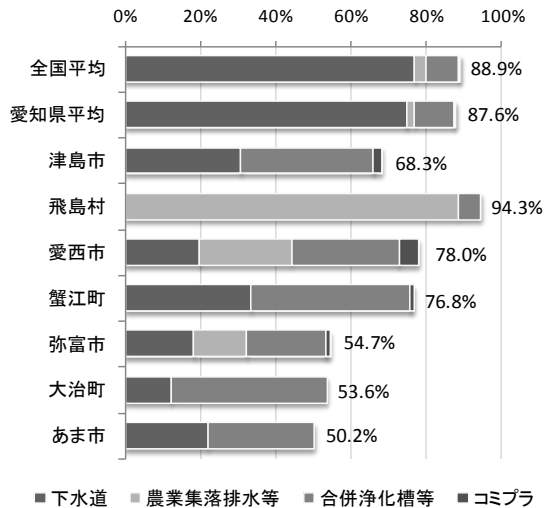


図 汚水処理人口普及率（平成 25 年度）

出典：愛知県「あいちの下水道」

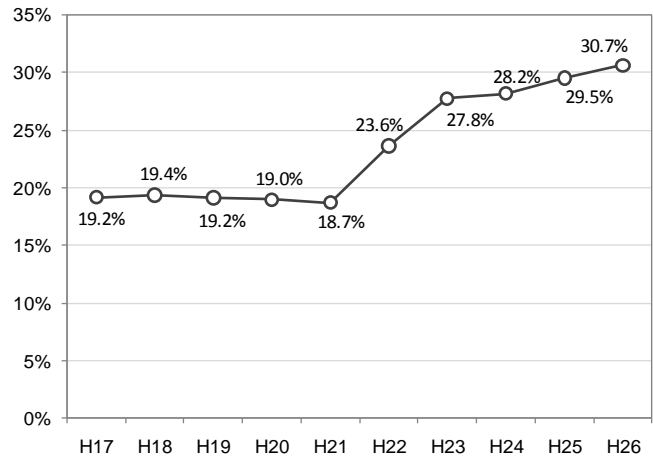


図 下水道普及率

出典：津島市「津島の統計」

※下水道普及率は、下水道の処理人口/総人口として、「津島の統計」から算出



## (4) 都市・快適環境

### ① 都市公園・緑地

- 都市公園は、天王川公園や東公園等の12箇所約29.8haが整備されています。市民1人当たり都市公園面積は4.5m<sup>2</sup>であり、愛知県平均(7.5m<sup>2</sup>/人)や国の整備目標値(10m<sup>2</sup>/人)を下回っています。
- 地域性緑地の状況をみると、風致地区が2地区16.1ha、生産緑地が260団地29ha、その他農振農用地区域が約711ha、河川区域が73.7haとなっており(平成19年度末)、都市公園等を含めて市域全体での緑地割合は約35%となっています。



表 都市公園一覧

公園名	種別	供用面積 (ha)	供用開始年月日	所在
天王川公園	総合公園	11.6	S57.5.1	宮川町1丁目地内外
東公園	運動公園	12.5	S57.5.1	新開町3丁目地内外
海西公園	近隣公園	2.1	H元.5.1	大縄町6.7丁目地内外
老松公園	街区公園	0.15	S57.6.1	老松町地内
金柳公園	"	0.14	S57.6.1	金柳町字南脇地内
今市場公園	"	0.18	S54.4.16	今市場町3丁目地内
大坪公園	"	0.10	S57.6.1	大坪町字壺里地内
南本町公園	"	0.36	S59.3.30	南本町4丁目地内
東洋町公園	"	0.12	S61.5.23	東洋町2丁目地内
立込公園	"	0.10	H2.4.1	立込町4丁目地内
市民の森	都市緑地	2.4	S59.3.30	新開町2丁目地内外
立込緑地	"	0.06	H2.4.1	立込町3丁目地内

図 都市公園等の分布図

出典：津島市「津島市都市計画マスタープラン」

## ② 交通

- 登録自動車台数が継続して増加傾向にありますが、世帯当たりの保有台数は、平成 18 年度以降減少傾向にあります。それでも、世帯当たりの保有台数は、平成 24 年度時点で 1.45 台/世帯であり、愛知県平均（1.33 台/世帯）、全国平均（1.08 台/世帯）を上回っています。
- 平成 22 年度における通勤・通学時の交通手段は、自動車が 53.8%を占め、愛知県平均（47.9%）や全国平均（42.5%）より高く、自動車への依存度が高くなっています。また、平成 12 年度と比較すると、10 年間で自動車が「51.4%→53.8%」と増加した一方で、鉄道・電車やバスが「23.6%→21.3%」に減少しています。
- 鉄道の乗車人員数は平成 16 年度以降、ほぼ横ばいで推移しています。
- 公共交通手段としてのバスの利用促進のため、市は巡回バスを運行しています。利用者数は、年々増加傾向を示し、平成 25 年度は年間 55,341 人が利用しています。
- 電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド自動車（PHV）の普及に必要な充電インフラ設備は、平成 25 年末時点で、津島市に急速充電設備 2 基、普通充電設備 5 基が整備されており、人口 1 万人当たりの充電設備数は県下でも上位にあります（「愛知県 EV・PHV タウン推進マスタープラン」「愛知県次世代自動車充電インフラ整備・配置計画」）。

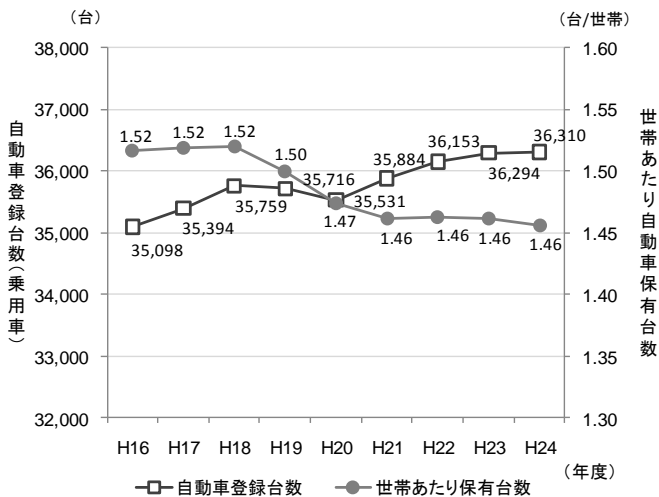


図 自動車登録台数と世帯あたり保有台数

出典：津島市「津島の統計」

表 世帯当たり保有台数の比較

	乗用車保有台数	世帯数	世帯あたり保有台数
津島市	36,310	24,987	1.45
愛知県	3,933,294	2,947,483	1.33
全国	58,729,343	54,171,475	1.08

出典：台数 津島市「津島の統計」

一般財団法人自動車検査登録情報協会

世帯数 総務省統計局「住民基本台帳に基づく

人口動態及び世帯数」

※乗用車は、普通乗用車、小型乗用車、軽自動車（乗用）の合計

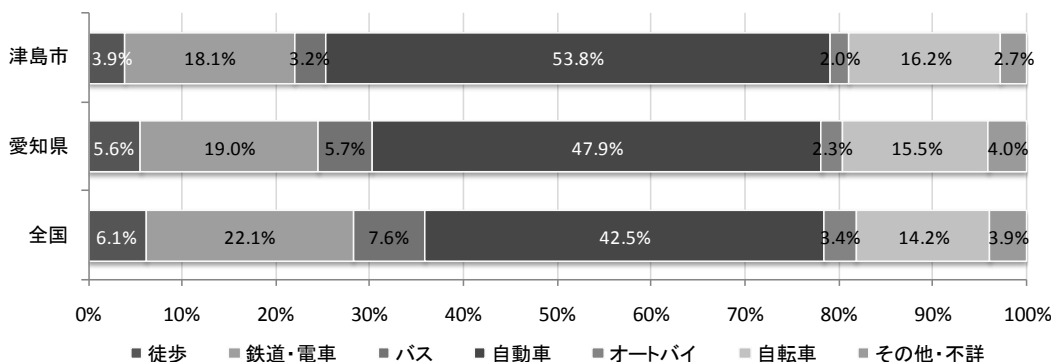


図 通勤・通学時の交通手段 (平成 22 年度)

出典：総務省統計局「平成 22 年国勢調査」

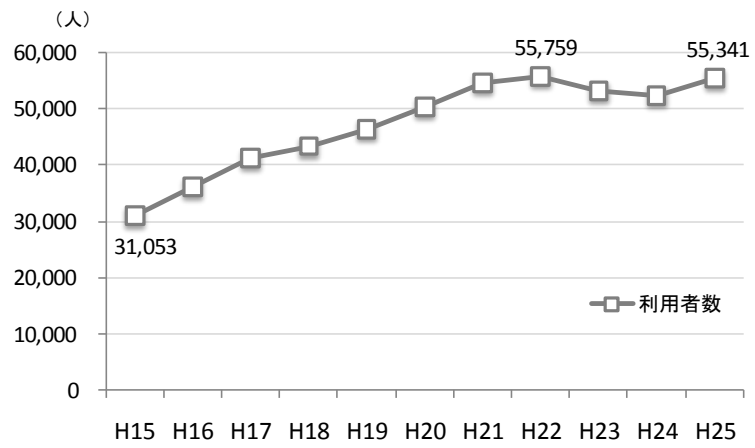


図 ふれあいバス（津島市巡回バス）利用者数

出典：津島市企画政策課

### ③ 歴史・文化

- 市内では、国指定文化財 7 件、県指定文化財 18 件、市指定文化財 125 件が指定され、国登録文化財 8 件が登録されています（平成 27 年 11 月現在）。津島神社等の社寺にかかわる文化財が多くみられ、地域別でみると駅西地域に多くの文化財があります。文化財の種類としては、無形民俗文化財や工芸、彫刻、建造物、絵画等が多くなっています。
- インターネット上の仮想博物館「津島市デジタル博物館」では、市内にある指定文化財や津島市にゆかりのある美術品等を常時公開しています。
- 平成 26 年に実施された「津島市市民意識調査」では、津島市の良い印象として「歴史的な街並みや伝統のある祭りが継承されており、歴史が感じられる」が 43.0%と最も多くの回答が挙げられました。



写真 左：津島神社本殿、右：尾張津島天王祭（朝祭）

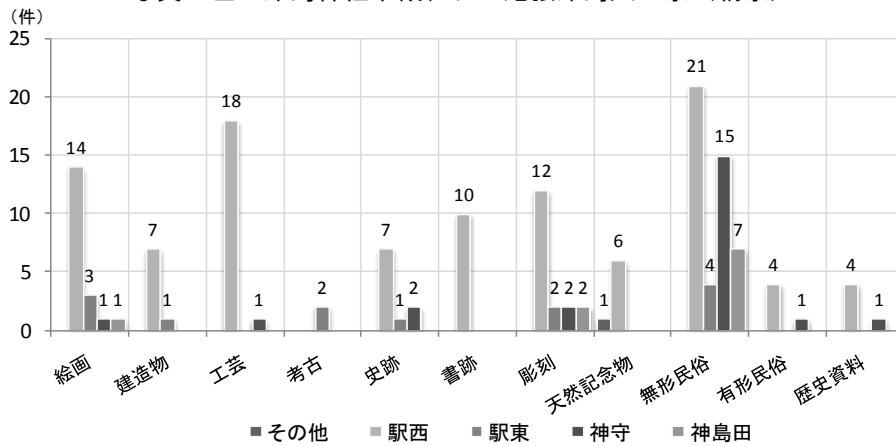


図 地区別の文化財件数

出典：津島市社会教育課

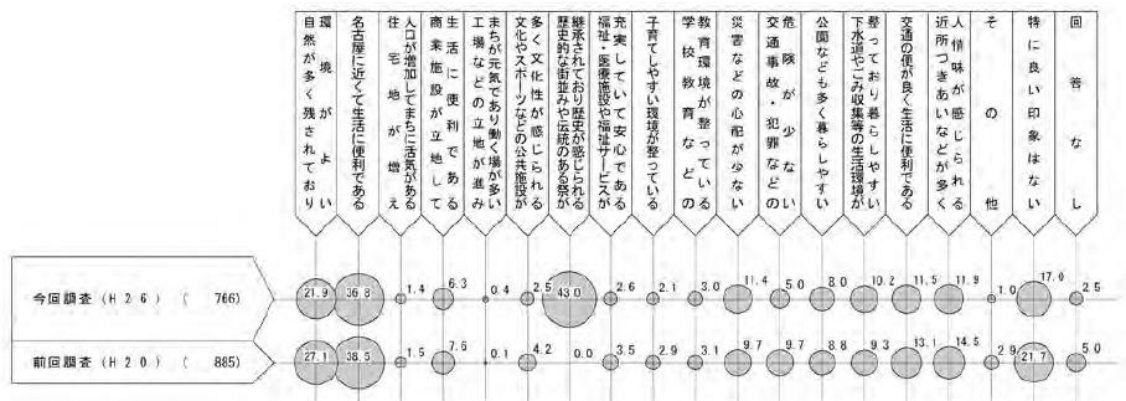


図 津島市の良い印象

出典：津島市「津島市市民意識調査結果報告書」

#### ④ 指定避難所・避難場所

- 市内には、大地震や風水害等の災害が発生、または、発生が予測される場合に開設される1次避難所として29箇所、1次避難所のみでは対応できない場合等に開設される2次避難所として11箇所が指定されています。
- また、避難所に隣接するグラウンドなど、地震災害時等で建物内での安全が確保できない場合や避難所が開設されるまでの間に避難する避難場所が33箇所、地震災害等で大規模火災や延焼火災が発生した場合に、煙や炎、熱風等から身体の安全を確保するための広域避難場所が2箇所指定されています。
- その他に、市内6箇所に防災倉庫を設置しており、防災テント、ワンタッチトイレ、担架ベット、救助工具箱セット等を備蓄しています。

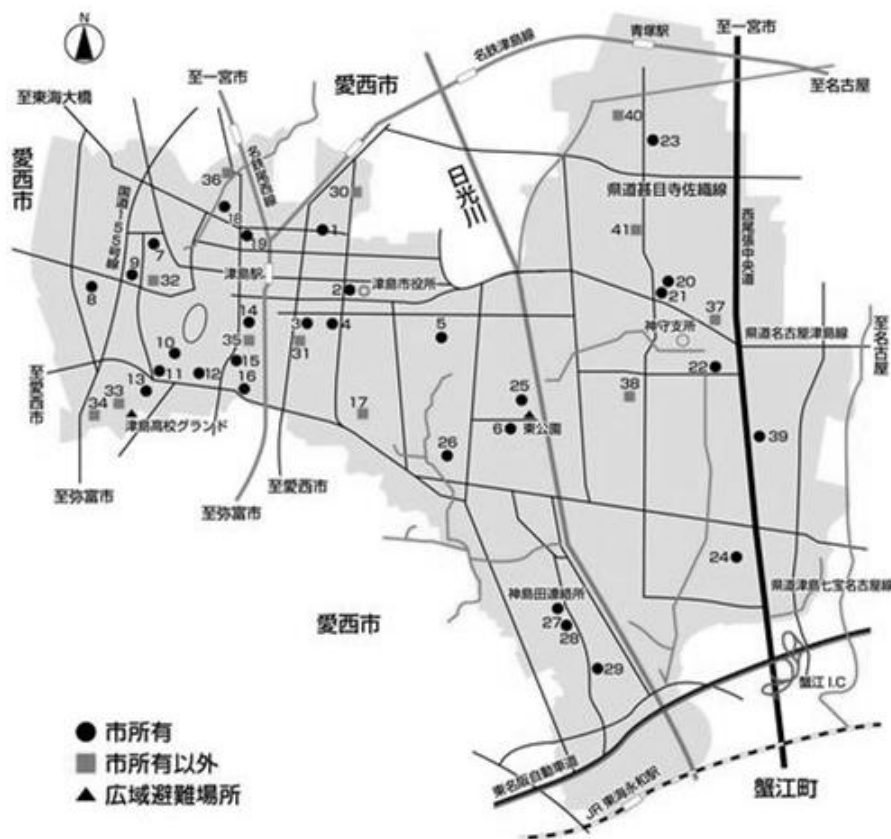


図 指定避難所・避難場所

出典：津島市 HP

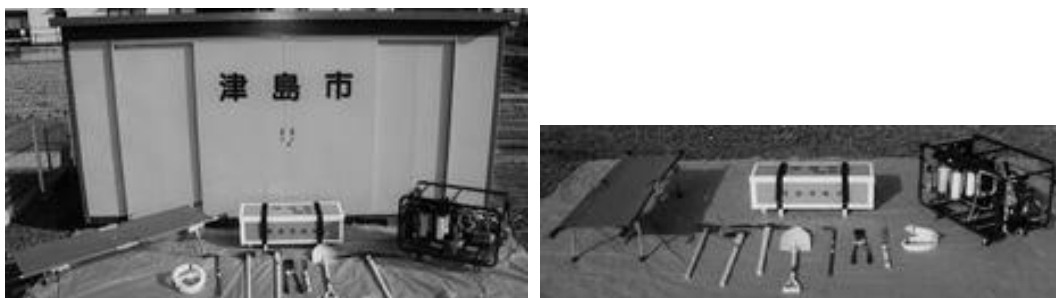


図 防災倉庫及び主な備蓄品

出典：津島市 HP

## (5) 広域・地球環境

### ① 部門別エネルギー消費量

- 1990年以降のエネルギー消費量をみると、全体的には1990年の3,176TJから2008年の4,243TJへと増加傾向を示しており、その後は2011年の3,968TJへと微減しています。これは国全体の傾向とほぼ同じとなっています。
- 2011年の部門別のエネルギー消費量は、産業部門が861TJで1990年比22.3%の減少となっていますが、民生家庭部門が962TJ（1990年比：43.6%増）、民生業務部門が1,518TJ（1990年比：58.3%増）、運輸部門が627TJ（1990年比：42.8%増）となり、産業部門の減少分が吸収されています。

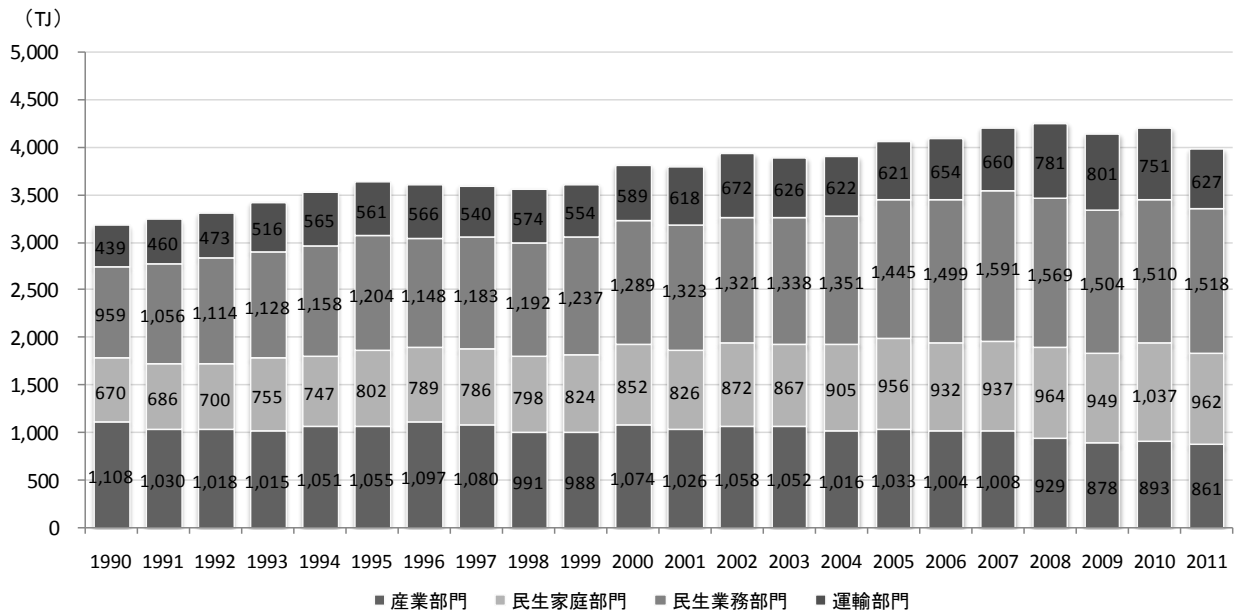


図 部門別エネルギー消費量（推計）

出典：経済産業省資源エネルギー庁「都道府県別エネルギー消費統計（愛知県）」

経済産業省資源エネルギー庁「市町村別エネルギー消費統計作成のためのガイドライン」

## ② 新エネルギー賦存量・可採量

- 新エネルギーの賦存量は、種々の制約要因（土地の傾斜、法規制、居住地からの距離等）を考慮せず、設置可能面積、平均風速、河川流量等から理論的に推計することのできるエネルギー資源量として推計しました。また、その可採量は、エネルギーの採取・利用に関する種々の制約要因による設置の可否を考慮したエネルギー資源量として推計を行いました。
- 可採量としては、太陽光発電（95,526GJ/y）、太陽熱利用（98,073GJ/y）、温度差熱利用（地中熱）（98,353GJ/y）が比較的高い結果となりました。なお、これらの各新エネルギーの可採量は、エネルギー消費量全体（2011年）の約2.4%～2.5%を占める値です。
- 気象庁の発表による1971年から2000年の年間日照時間をみると、愛知県沿岸部は全国の中でも特に日照時間の長い地域であり、太陽光発電の導入に適した地域であることが分かります。
- 中部電力株式会社津島営業所によれば、平成26年3月末現在で、市内に設置された1,071基の太陽光発電設備により最大出力7,700kWの発電能力を有し、平成25年度の年間累積受給電力量は、636万kWhとなっています。

表 新エネルギーの賦存量・可採量（推計）

新エネルギー	賦存量		可採量	
太陽光発電	11,708,470 [MWh/y]	42,150,492 [GJ/y]	26,535 [MWh/y]	95,526 [GJ/y]
風力発電	41,533 [MWh/y]	149,517 [GJ/y]	2 [MWh/y]	8 [GJ/y]
バイオマス発電	859,546 [MWh/y]	3,094,366 [GJ/y]	849 [MWh/y]	3,056 [GJ/y]
中小規模水力発電	— [MWh/y]	— [GJ/y]	— [MWh/y]	— [GJ]
地熱発電	427 [MWh/y]	1,536 [GJ/y]	21 [MWh/y]	77 [GJ/y]
太陽熱利用		42,150,492 [GJ/y]		98,074 [GJ/y]
温度差熱利用(地中熱)		1,130,040 [GJ/y]		98,353 [GJ/y]
温度差熱利用(河川水)		— [GJ/y]		— [GJ/y]
バイオマス熱利用		3,094,366 [GJ/y]		22,024 [GJ/y]
雪氷熱利用		0 [GJ/y]		0 [GJ/y]
バイオマス燃料製造		10,193 [GJ/y]		3,058 [GJ/y]

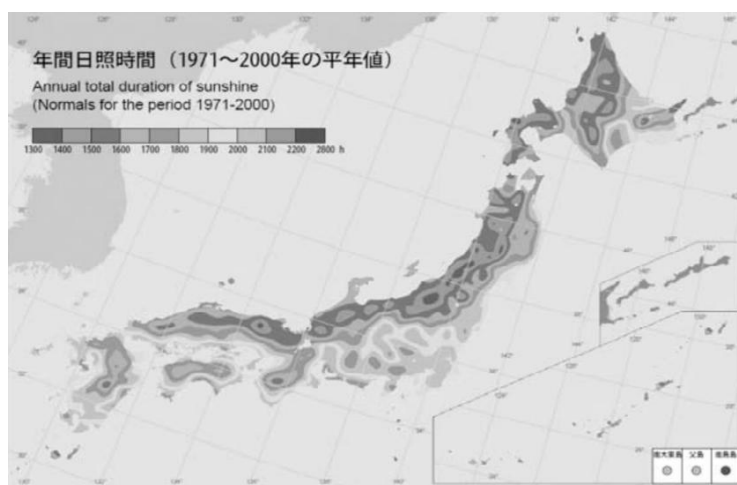


図 日本の年間日照時間

出典：独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構「太陽光発電の効果的な導入のために」

## 4 環境に関する市民意識

### (1) 市民意識調査の概要

#### ① 調査目的

- 「津島市環境基本計画」の策定にあたり、市民及び事業者の環境に対する意識、環境保全の取組状況等を把握することを目的として、市民意識調査を実施しました。

#### ② 調査対象・方法

- 調査対象は、住民基本台帳から無作為抽出した 18 歳以上の市民 2,000 人、市内に事業所を有する 300 事業者、市内公立中学校 2 年生生徒 246 人、市内公立小学校 5 年生児童 290 人とししました。
- 調査方法は、18 歳以上の市民及び市内事業者については郵送配布・郵送回収とし、市内公立中学校生徒及び小学校児童については各学校を通じて配布・回収を行いました。

#### ③ 調査項目

##### 【市民（18 歳以上）、小中学生】

##### ■津島市の現在の環境について

- ・【市民】現在の環境に対する満足度
- ・【小中学生】身の回りの環境について感じていること

##### ■環境保全の取組みについて

- ・【市民】環境問題への関心度
- ・【市民】環境保全への意識
- ・【市民】現在実行している／継続・今後実行したい環境保全につながる取組み
- ・【小中学生】今している／大人になったらしようと思う取組み
- ・【市民】より積極的に環境保全につながる取組みを行うために必要なこと
- ・【市民】環境保全に関する市民活動の取組経験／取組意向

##### ■行政による環境保全の取組みについて

- ・【市民】行政として重点的に取り組むべき環境分野

##### ■将来の津島市の環境について

- ・【市民】20 年後の望ましい環境の姿
- ・【小中学生】20 年後の津島市の環境のイメージ
- ・【市民】望ましい環境の姿の実現に向けて行っていること／今後行いたいこと
- ・【小中学生】環境のイメージの実現に向けて今していること／大人になったらしようと思うこと
- ・【市民】50 年後の環境の姿
- ・【小中学生】50 年後の津島市の環境は今と比べてどうなっているか

##### ■津島市の環境についての提案

- ・【市民】津島市の環境に対する提案
- ・【小中学生】環境を守るために大人にして欲しいこと



## 【事業者】

### ■環境保全の取組みについて

- ・【事業者】 環境問題に対する重要度意識
- ・【事業者】 環境保全に対する意識
- ・【事業者】 現在実行している／継続・今後実行したい環境保全につながる取組み
- ・【事業者】 環境保全に取り組むことで得られるメリット
- ・【事業者】 環境保全に取り組む上での課題
- ・【事業者】 今後取り組む予定の環境保全の取組み
- ・【事業者】 より積極的に環境保全につながる取組みを行うために必要なこと

### ■行政による環境保全の取組みについて

- ・【事業者】 行政として重点的に取り組むべき環境分野

### ■将来の津島市の環境について

- ・【事業者】 20年後の望ましい環境の姿
- ・【事業者】 望ましい環境の姿の実現に向けて行っていること／今後行いたいこと

### ■津島市の環境についての提案

- ・【事業者】 津島市の環境に対する提案

## ④ 回収結果

表 市民意識調査の回収結果

	配布数（通）	回収数（通）	回収率（％）
18歳以上の市民	2,000	1,089	54.5
市内事業者	300	133	44.3
市内公立中学校2年生生徒	246	222	90.2
市内公立小学校5年生児童	290	281	96.9
合計	2,836	1,725	60.8

## (2) 市民(18歳以上)、小中学生の調査結果

### ① 津島市の現在の環境について

- 「安全な食品を買うことができる」や「リサイクルが進んでいる」など、暮らしに関する項目の満足度が高く、市民も小中学生もほぼ同じ感覚でした。
- 小中学生は、河川や池の水が汚いと感じていたり、地盤沈下や水害について不安を感じているなど、水に関する不満の回答割合が高いのに対し、市民はごみのポイ捨てや不法投棄、フンの放置などに関する不満の回答割合が高くなっていました。
- 中学生と小学生では、「家庭での環境の会話がある」の回答割合に比較的大きな差がみられ、中学生では、小学生と比べて家庭での環境に関する会話が少なくなっています。

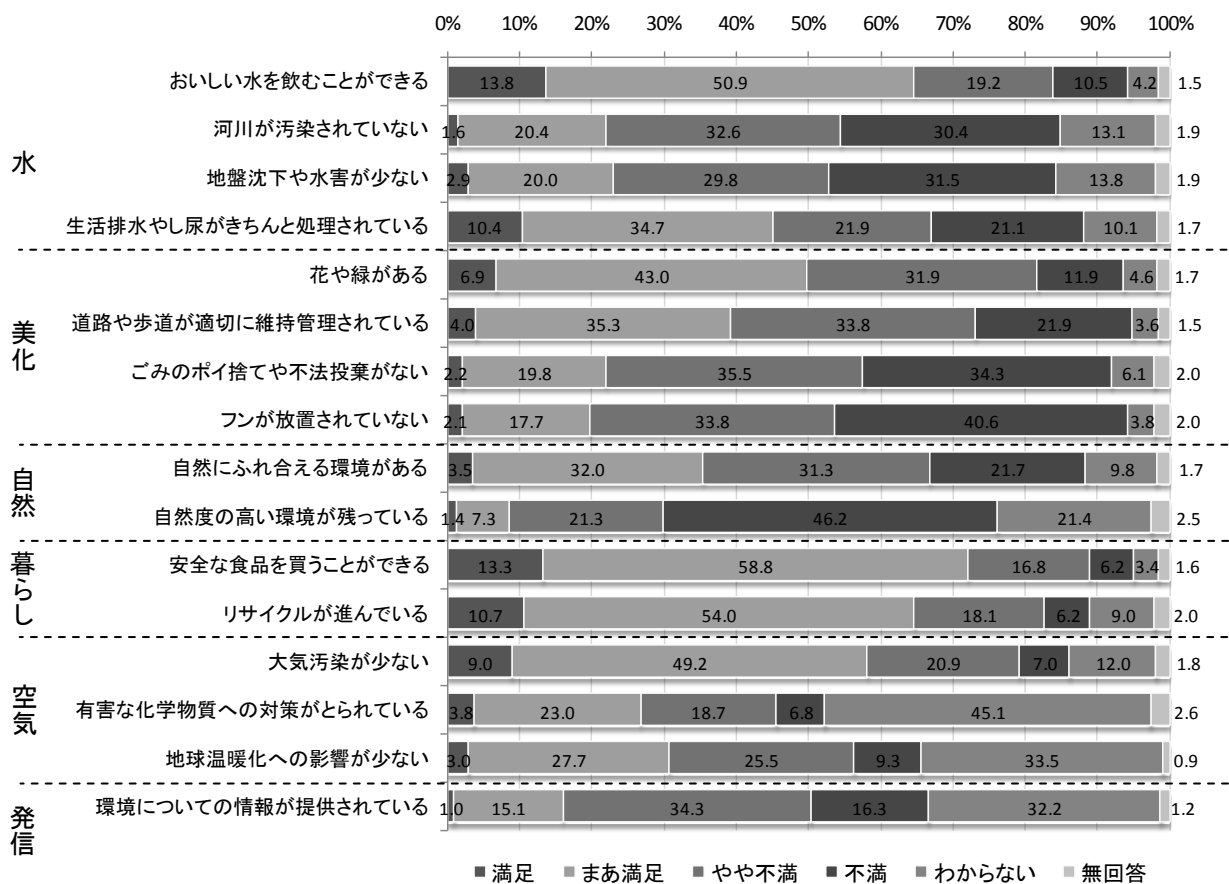
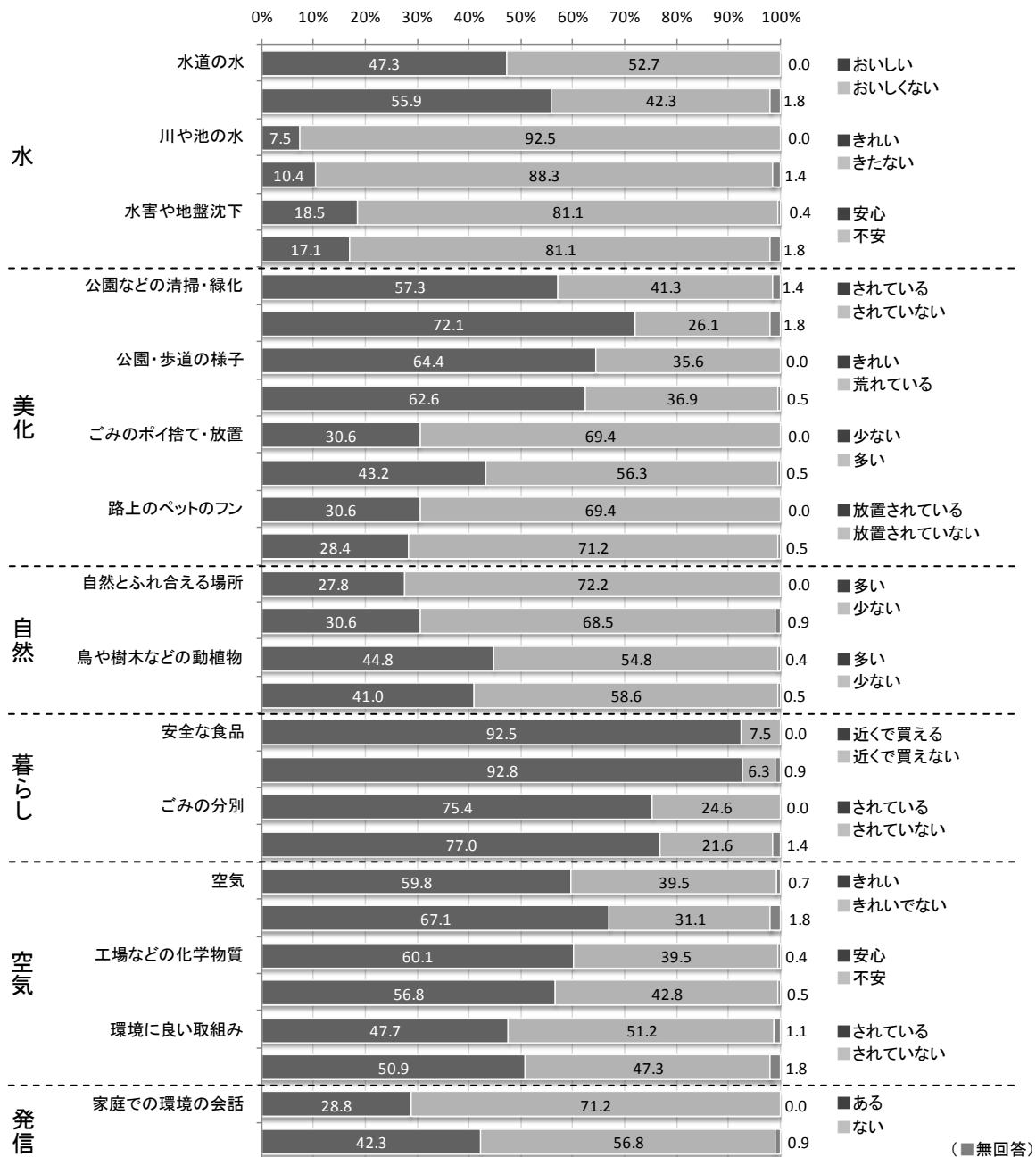


図 津島市の現在の環境の満足度（市民）

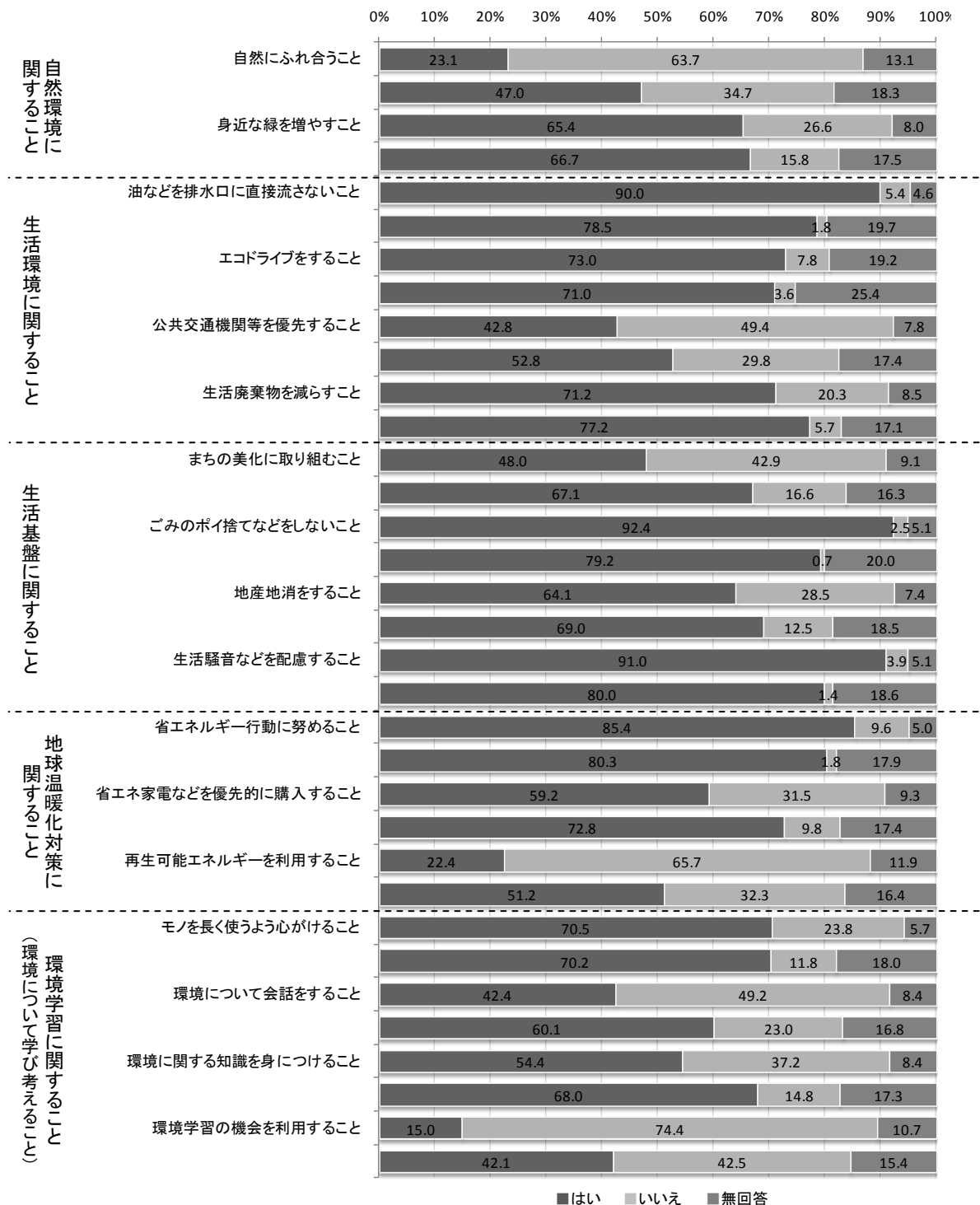


※各項目の上段が中学生、下段が小学生の回答

図 津島市の現在の環境の満足度（小中学生）

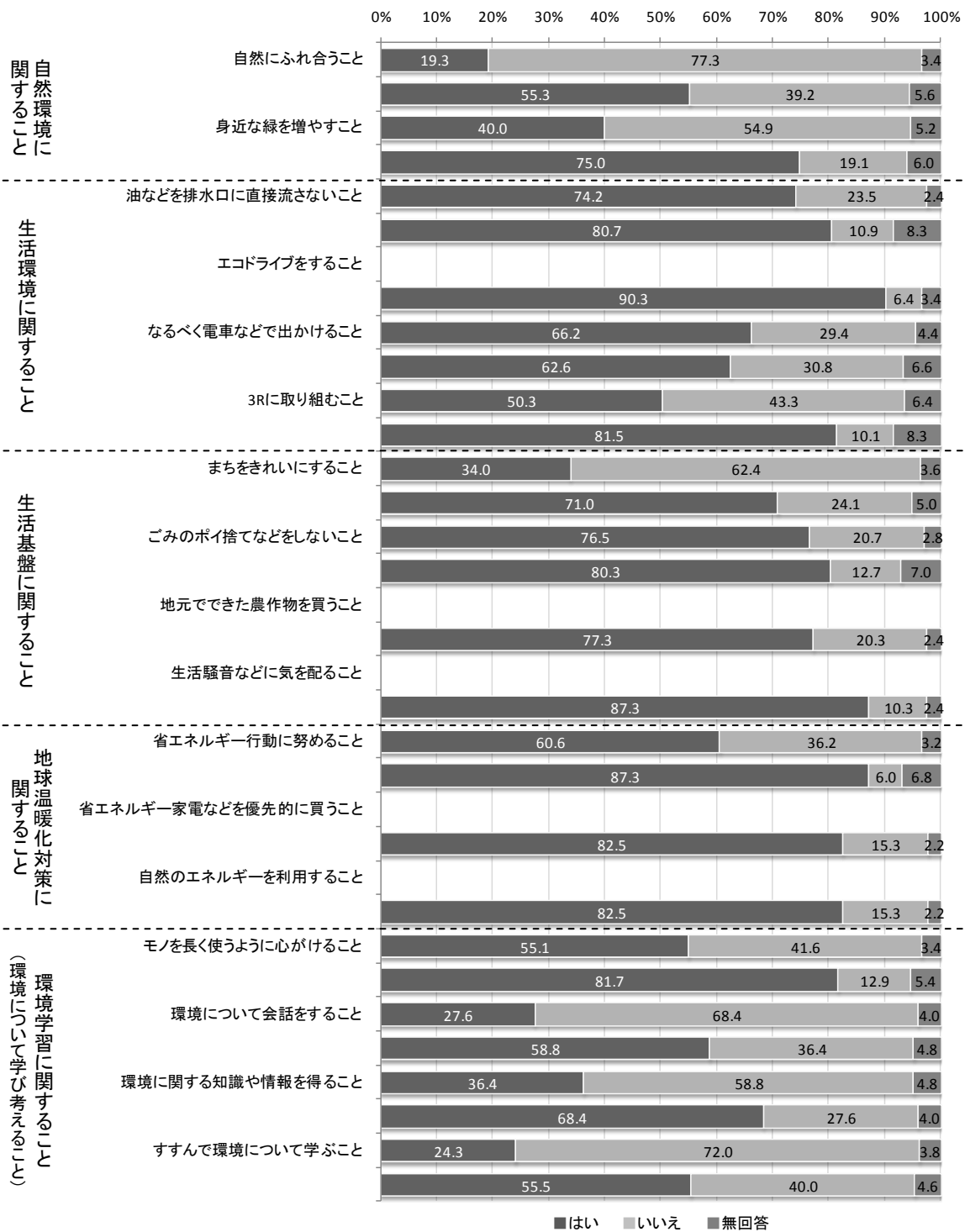
## ② 環境保全の取組みについて

- 市民が実行している環境保全につながる取組みは、日常生活に根付いた身近にできるものが多いなっています。環境学習の機会を利用すること（15.0%）、再生可能エネルギーを利用すること（22.4%）、自然にふれ合うこと（23.1%）については、現状ではあまり取り組まれていません。
- 小中学生では、環境について、会話をする、すすんで学ぶ、知識や情報を得るなど環境学習に関することについて、現状ではあまり取り組まれていません。エコドライブなど現在していないことについて、将来への関心は高くなっています。



※各項目の上段が①現在実行しているか、下段が②継続又は今後実行していくかの回答

図 環境保全につながる取組み（市民）



※中学生と小学生の回答の合計値

※各項目の上段が①今しているか、下段が②大人になったらしようと思うかの回答

図 環境保全につながる取組み（小中学生）

### ③ 行政による環境保全の取組みについて

- 生活環境に関することについて、重点的に取り組んでいくべきという意見が多くありますが、これまで行政が重点的に取り組んできた分野でもあります。
- 環境学習に関することについては、わからないとの回答がいずれも3割前後を占めており、行政の課題としての認識が進んでいないと思われます。
- 自然環境の保全については、74.2%が重点的に取り組むべきと考えていますが、地球温暖化対策や生物多様性の保全といった新しい課題に対しては、あまり高くなっていません。

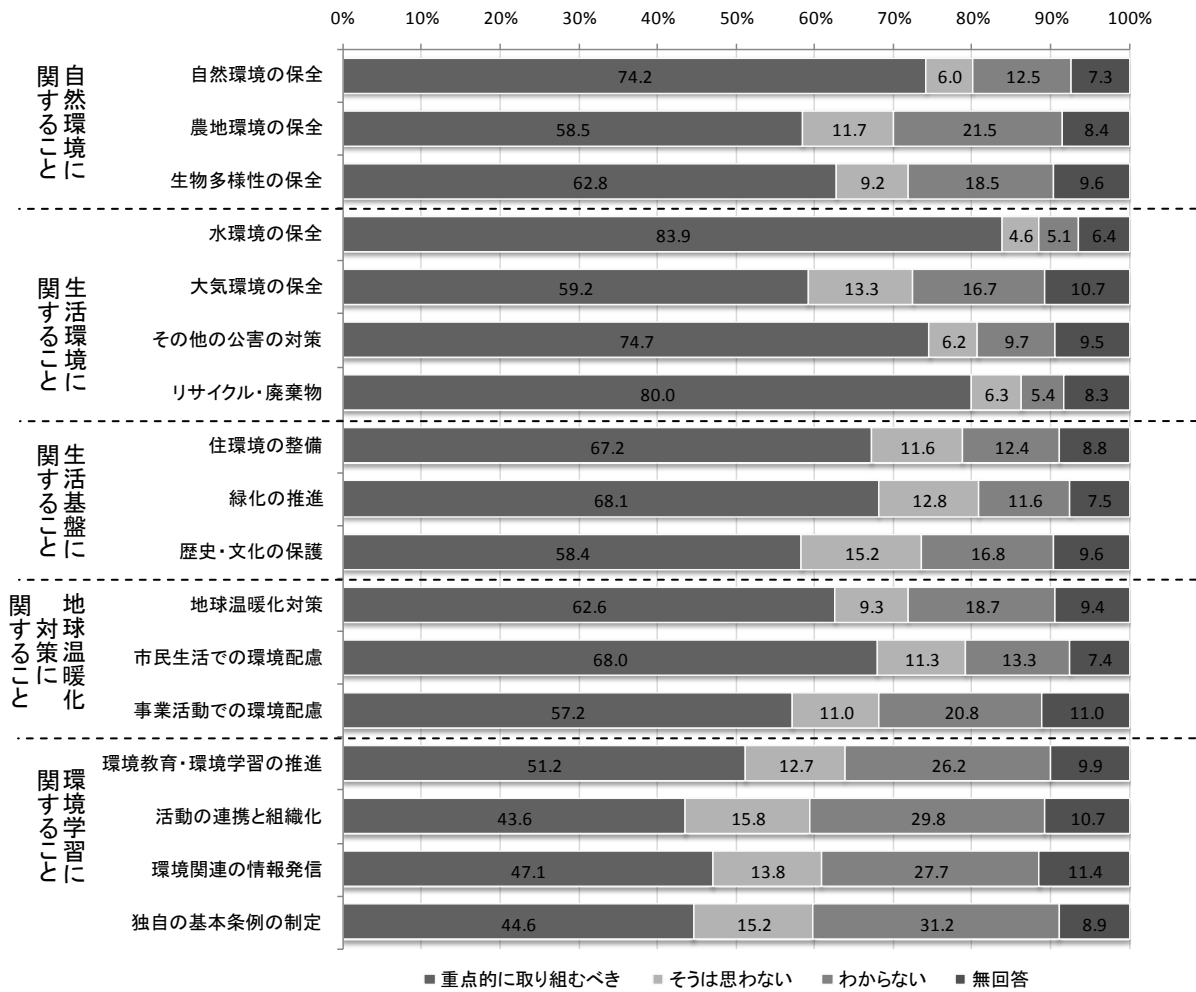


図 行政が重点的に取り組むべき分野（市民）

#### ④ 将来の津島市の環境について

- 「防災・減災の取組みが進んで災害に強い」については、一般市民において飛びぬけて高い割合を示しており、全年齢層を通じて、災害に強いまちという将来像を描いています。
- 水環境・大気環境が良好で、まちににぎわいがあることが望まれています。
- 小中学生の結果を市民と比較すると、「緑が豊か」という将来イメージの回答割合が高くなっています。

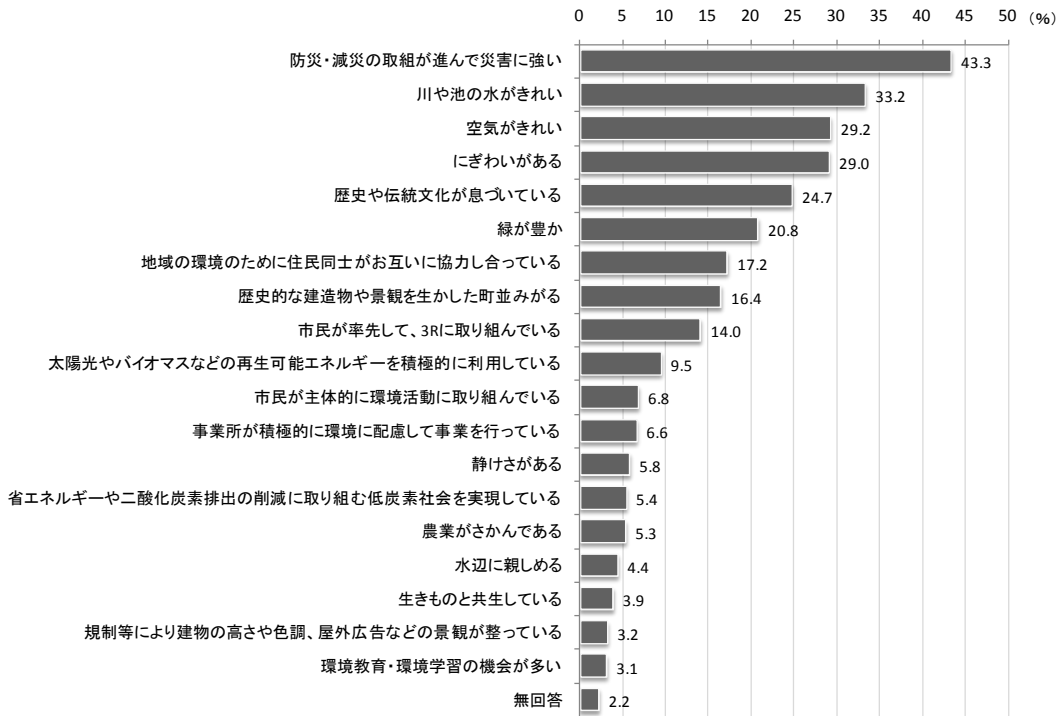
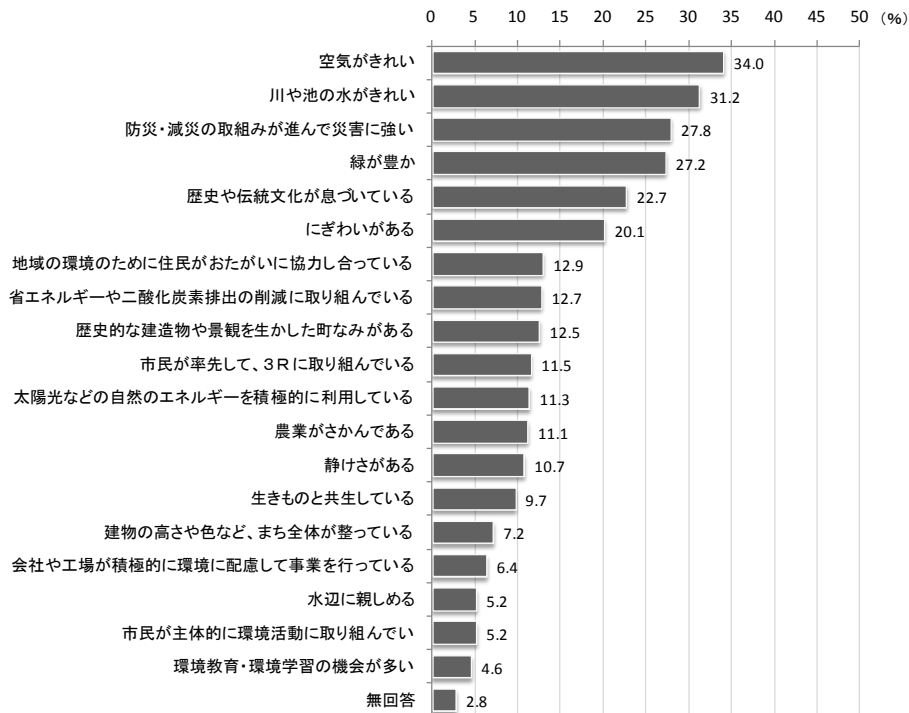


図 20年後の津島市の望ましい環境の姿（市民）



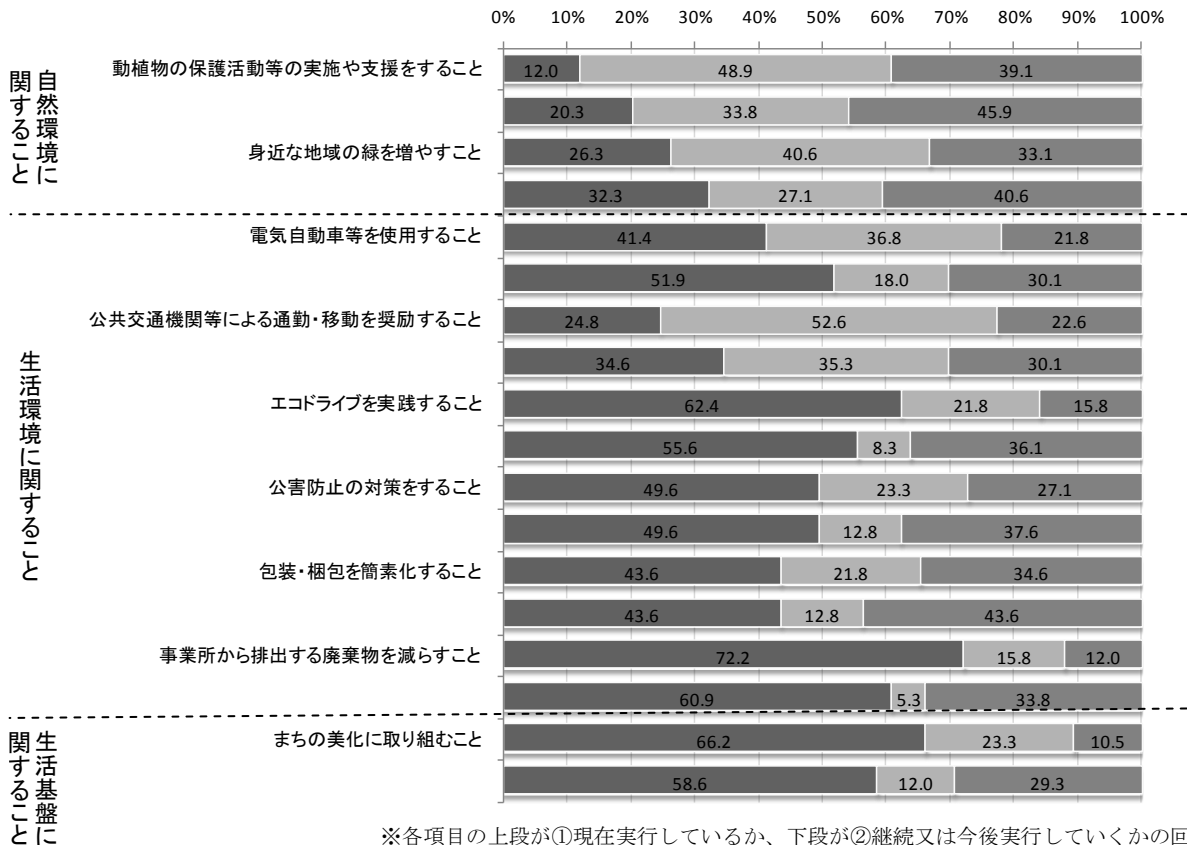
※中学生と小学生の回答の合計値

図 20年後の津島市の望ましい環境の姿（小中学生）

### (3) 事業者の調査結果

#### ① 環境保全の取組みについて

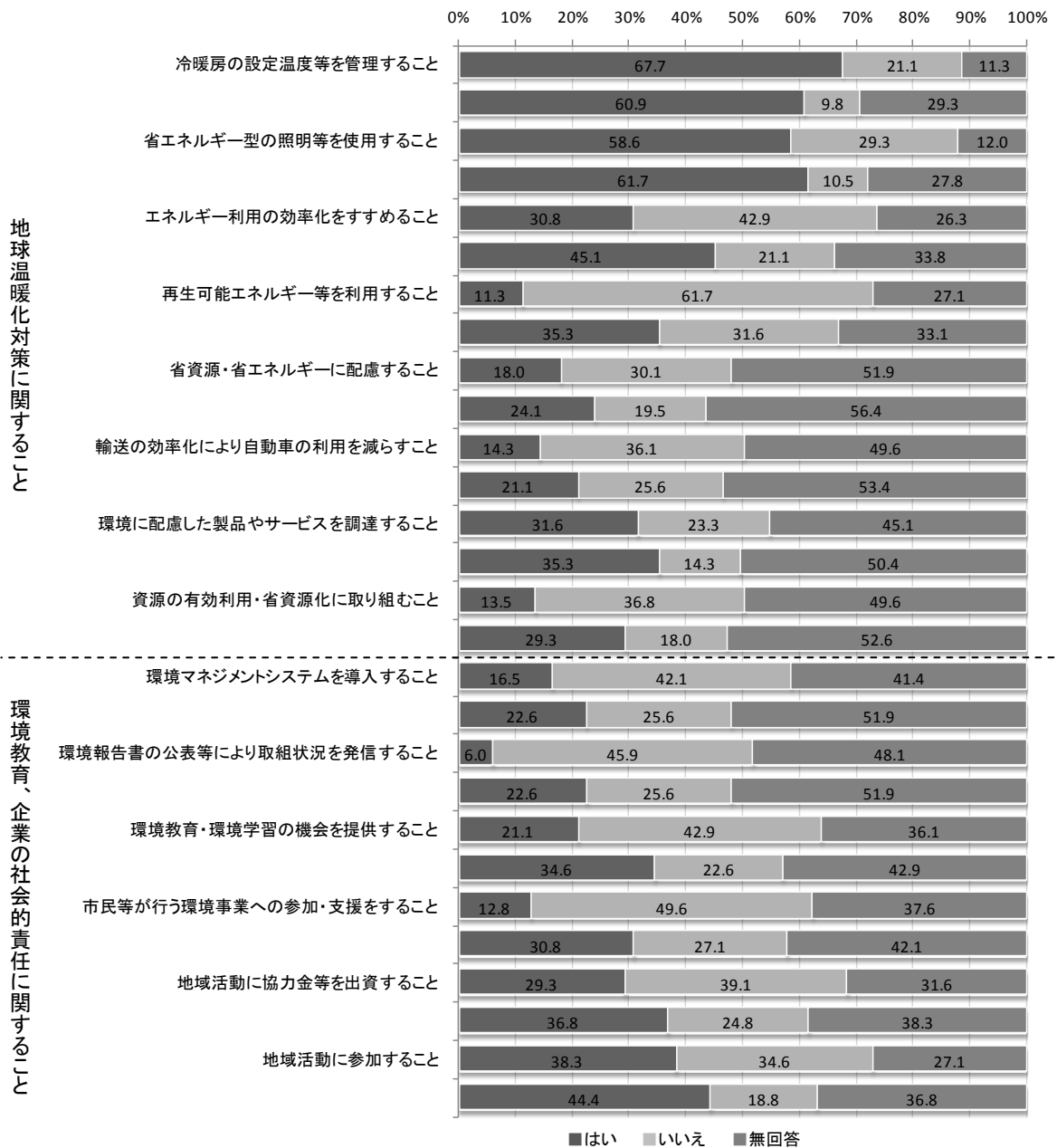
○地球温暖化対策に関することでは、「冷暖房の設定温度等を管理すること」や「省エネルギー型の照明等を使用すること」といった電力消費量の削減につながる取組みで実行割合が高くなっています。



※各項目の上段が①現在実行しているか、下段が②継続又は今後実行していくかの回答

図 環境保全につながる取組み (1/2) (事業者)





※各項目の上段が①現在実行しているか、下段が②継続又は今後実行していくかの回答

図 環境保全につながる取組み (2/2) (事業者)

- 環境保全活動に取り組む上での課題としては、「取り組むための資金が確保できない」「取り組むための人材・人手が確保できない」という回答割合が高くなっています。
- 「ノウハウが不足しており、技術的に困難である」「情報が不足している」といった課題も挙げられ、ソフト面の支援不足も大きな障害となっています。
- 事業所の規模別にみると、従業員数の少ない事業所では、「取り組むための資金が確保できない」という課題を抱える事業所が多く、ノウハウや情報については、事業所の規模に関係なく、共通の課題であることがわかります。
- 直接的なメリットや財政支援があることで積極的に取り組みやすいことがわかります。また、取り組みの成果が目に見える形で実感できるということも重要な要素となります。

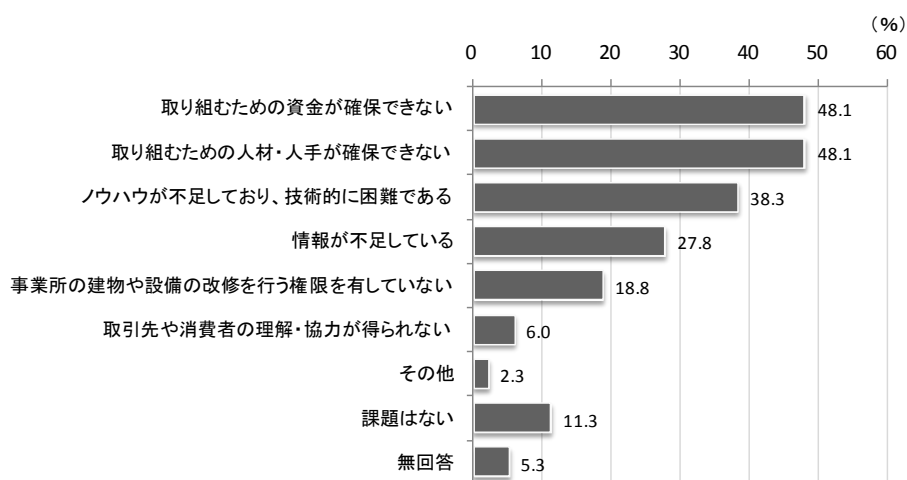


図 環境保全に取り組む上での課題（事業者）

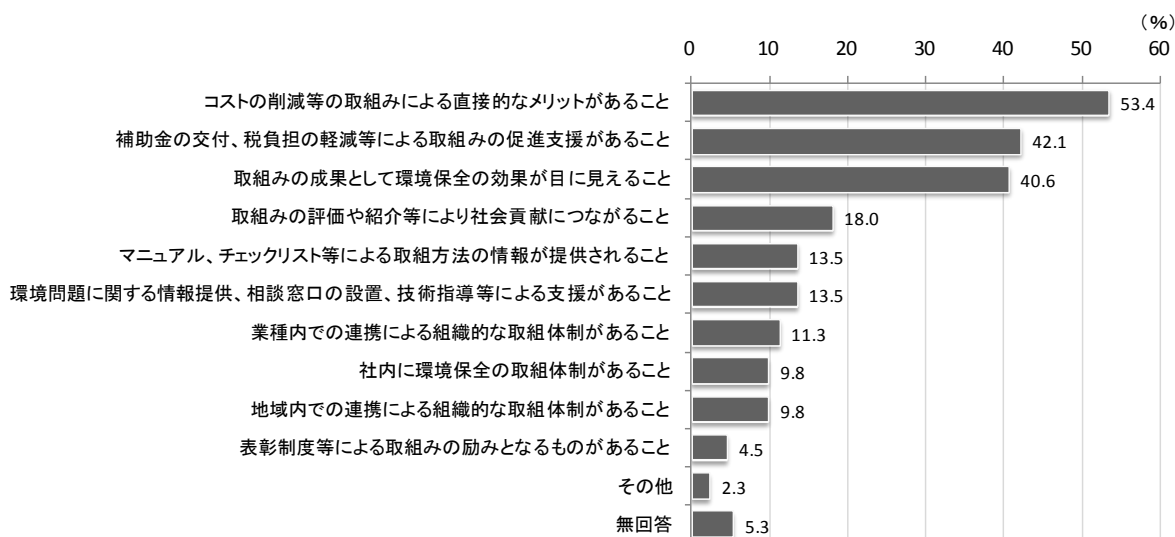


図 環境保全により積極的に取り組むために必要なもの（事業者）

## ② 行政による環境保全の取組みについて

- 生活環境に関することについて、重点的に取り組んでいくべきという意見が多くありますが、これまで行政が重点的に取り組んできた分野でもあります。
- 環境学習に関することについては、わからないとの回答がいずれも3割前後を占めており、行政の課題としての認識が進んでいないと思われます。

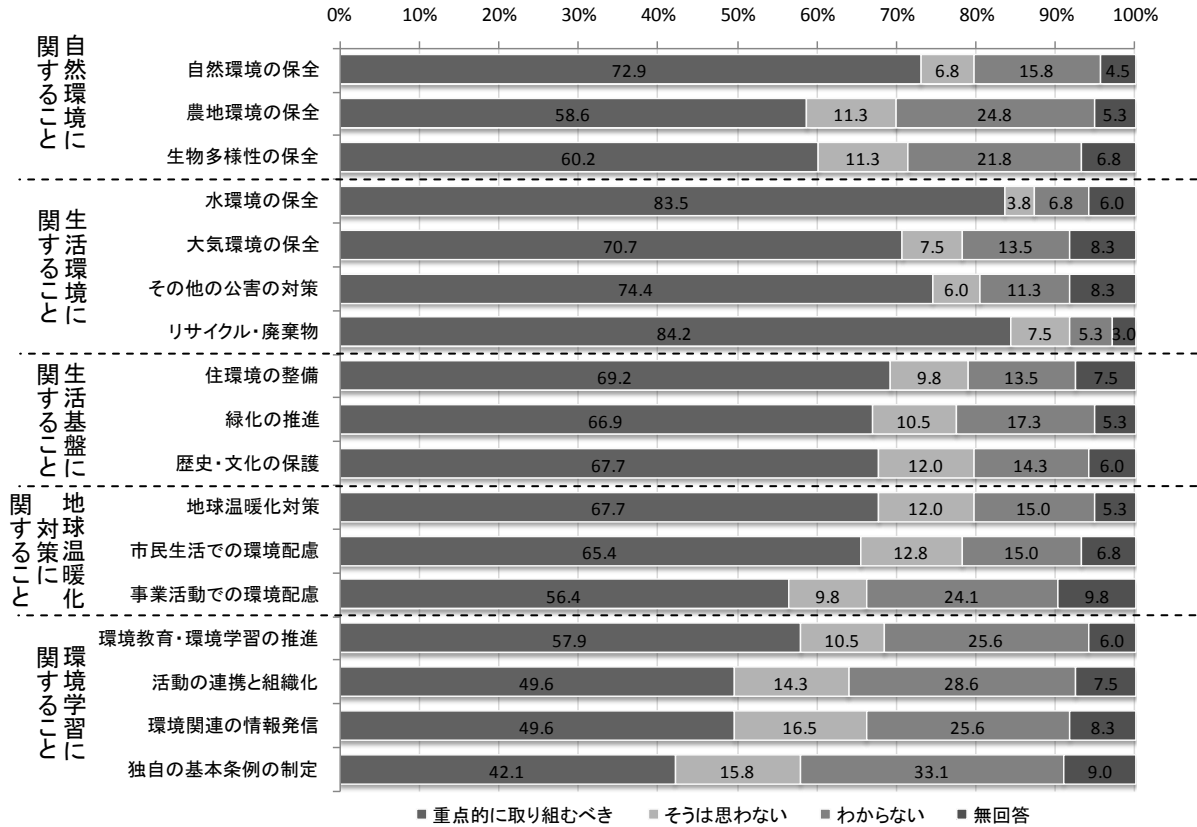


図 行政が重点的に取り組むべき分野（事業者）

### ③ 将来の津島市の環境について

- 「防災・減災の取組みが進んで災害に強い」については、市民に比べて低い結果となっています。
- 「川や池の水がきれい」、「歴史や伝統文化が息づいている」の項目の割合は、市民より高い結果となっています。

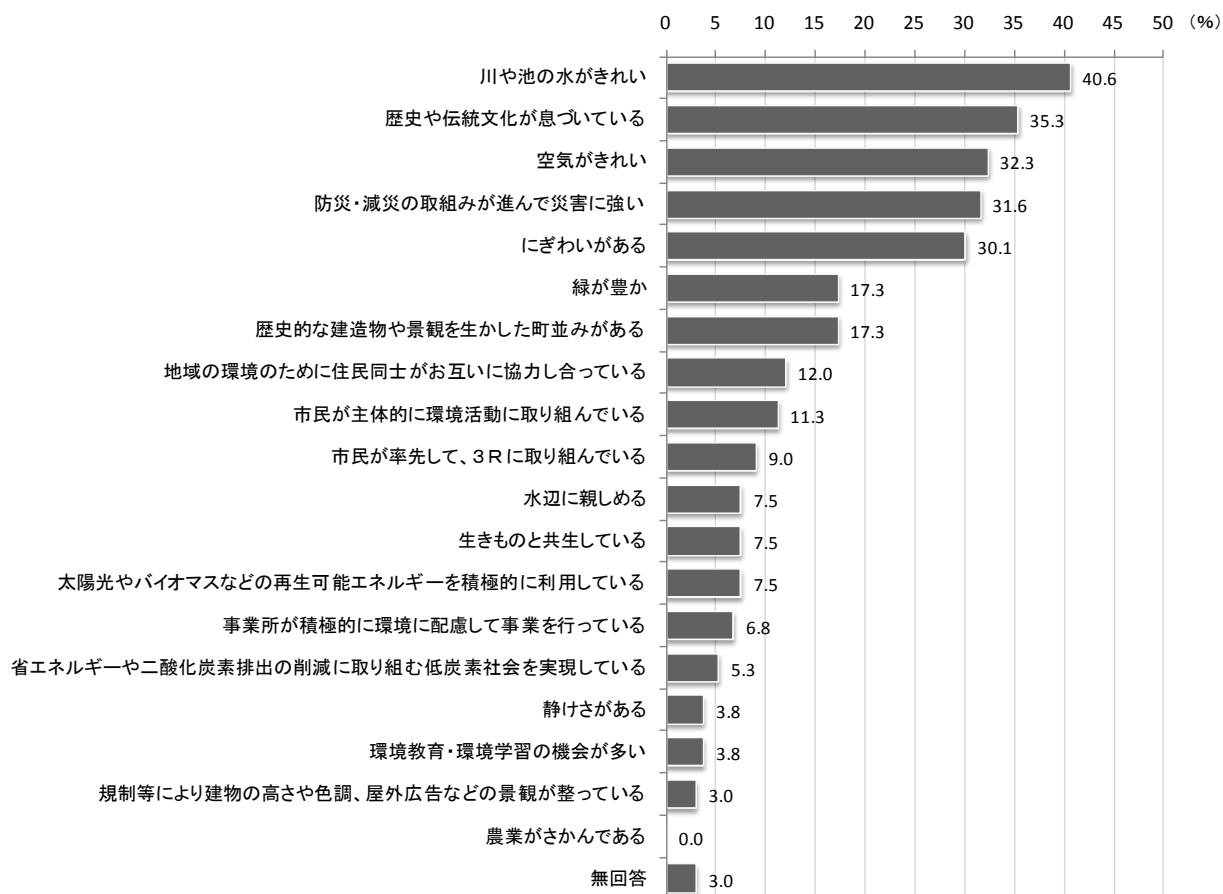


図 20年後の津島市の望ましい環境の姿（事業者）



## 津島市環境基本計画

平成 年 月策定

津島市生活産業部生活環境課

〒496-8686 愛知県津島市立込町2丁目21番地

TEL : 0567-24-1111 (代表) FAX : 0567-24-1791

## 津島市環境基本計画



つしまのキャラクター「つし丸」「ふじか」「マッキー」